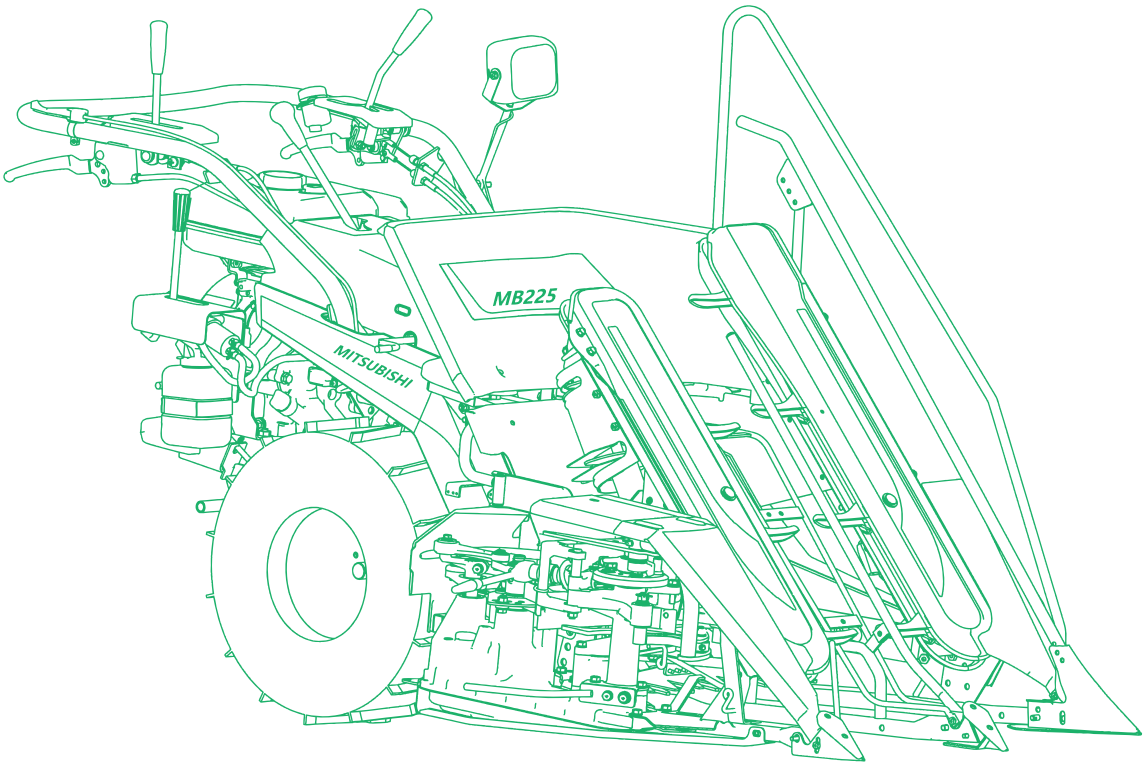
バインダ

取扱説明書

MB225・215・115



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

バインダ重要ポイント

1．燃料補給するときは、
火気厳禁とします。
エンジンを停止し冷機状態で行います。

2．エンジンの始動は、
主変速クラッチレバーまたは走行主クラッチレバーを「切」
刈取レバーを「切」にして行います。
周囲の安全を確認してから行います。

3．トラックから降ろすとき、ほ場へ入るときは、
後方、足元を確かめバックで低速で行い、途中で
主変速・変速クラッチレバーまたは走行主クラッチレバー
サイドクラッチレバーは使いません。

4．移動時は、刈取レバーを「切」、ナローガイドを収納し、
機械先端に分草杆保護具を取り付けて行います。

5．調整・掃除・ワラ巻付きの除去は
必ずエンジンを停止して行います。

6．補助者と共同作業を行うときは、
合図をし安全確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

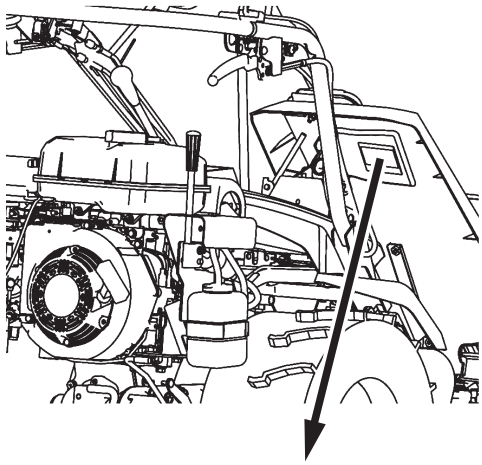
- このたびは、バインダをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲・麦の刈取結束作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱マヒンドラ農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱バインダ（以降バインダと記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- このバインダの取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項やバインダに表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、バインダの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびバインダ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- バインダの性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- このバインダは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このバインダを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のバインダの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本バインダを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をバインダに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容はバインダの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本バインダとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、バインダ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげ先にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたらお買いあげ先へお問い合せください。

型式と装備内容について

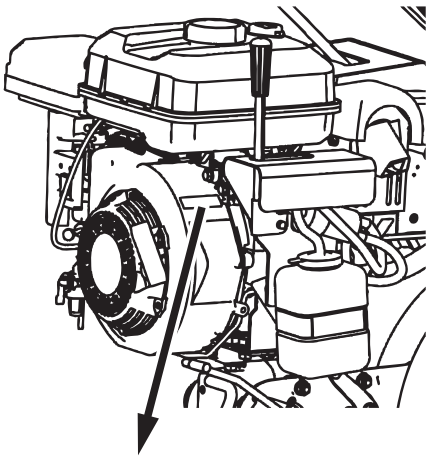
■商品の使用にあたって

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のバインダについて併記しています。
お買いあげいただいたバインダの販売型式名を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



販売型式名
製造番号



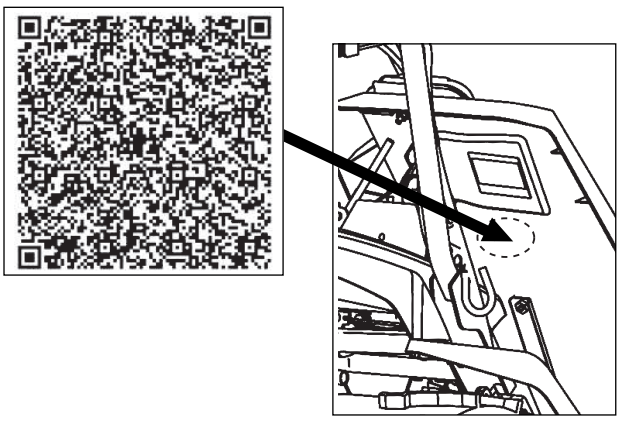
エンジン型式名
エンジン機関番号

■装備内容

販売型式名	区分	装備内容	区分	装備内容
MB225	D	集中注油・自動刈取・ライト	H	半自動ヒモ通し
	W	湿田タイヤ		ー
MB215	D	集中注油・自動刈取・ライト	W	湿田タイヤ
	G	刈取変速		ー
MB115	J	油圧ジャッキ・ライト	G	刈取変速
		ー		

■ＱＲコードについて

取扱説明書はＱＲコードにより、ＷＥＢサイトからも閲覧できます。
お持ちのスマートフォンや携帯電話などで、右記のＱＲコードを読み取ってご利用ください。
（ご利用するために要する通信費は、お客様ご自身の負担となります。）
ＱＲコードは機体にも貼付けています。
※ＱＲコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



警告表示について

本バインダを正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。また、バインダで危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危 険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注 意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補 足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例）

目　次

重要なお知らせ …… i
型式と装備内容について …… ii
警告表示について …… iii
目　次 …… iv

1. 使用上のポイント

1.1　使用上のご注意 …… 1
1.1.1　運転者の条件 …… 1
1.1.2　作業をする前に …… 2
1.1.3　エンジンの始動と発進 …… 3
1.1.4　移動するときは …… 4
1.1.5　トラックへの積み・降ろし … 6
1.1.6　運搬時の注意事項 …… 7
1.1.7　作業中は …… 8
1.1.8　夜間作業の禁止 …… 9
1.1.9　点検・整備 …… 9
1.1.10　格納・保管時は …… 11
1.2　警告ラベルについて …… 12
1.3　警告ラベル貼付位置 …… 13

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証 …… 14
2.2　サービスネット …… 14
2.3　補修用部品供給年限について …… 14

3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称 …… 15
3.1.1　MB225 …… 15
3.1.2　MB215 …… 16
3.1.3　MB115 …… 17

4. 作業前点検

4.1　給油、注油箇所の点検と補給 …… 18
4.1.1　燃料 …… 18
4.1.2　エンジンオイル …… 19
4.1.3　オイル注油・潤滑剤塗布箇所 … 20

5. 運転のしかた

5.1　エンジン始動と停止のしかた …… 23
5.1.1　エンジン始動のしかた …… 23
5.1.2　エンジン停止のしかた …… 25
5.2　発進、停止のしかた …… 26
5.2.1　発進、停止のしかた …… 26
5.2.2　移動のしかた …… 28
5.2.3　駐車のしかた …… 29
5.3　運搬のしかた …… 30
5.3.1　トラックへの
積み・降ろしのしかた …… 30

6. 作業前の準備

6.1　結束ひもの準備 …… 31
6.1.1　結束ひもの種類（準備品）… 31
6.1.2　結束ひもの通しかた …… 31
6.1.3　ハンドル高さの調節 …… 35

7. 作業のしかた

7.1　刈取作業のしかた …… 36
7.1.1　枕刈り …… 37
7.1.2　刈取操作 …… 37
7.1.3　自動刈取の操作
（MB225-D、MB215-D）… 38
7.1.4　刈取方法 …… 38
7.2　倒伏作物の刈取作業 …… 39
7.2.1　倒伏角度・作業速と
刈取方向 …… 39
7.2.2　補助ナローガイドの調節
（MB225-D）…… 39
7.2.3　デバイダの調節 …… 40
7.2.4　刈取副変速の切り換え
（MB215-G、MB115-G）… 40
7.3　湿田での刈取作業 …… 41
7.3.1　車輪上下の調節 …… 41
7.4　その他の刈取作業 …… 43
7.4.1　放出シャッタの調節
（MB225）…… 43

7.4.2　もとばらいガイドの調節 … 43
7.4.3　束の大きさの調節 …… 44
7.4.4　麦の刈取作業 …… 44

8. 点検整備

8.1　点検・整備に関する注意 …… 45
8.1.1　点検、給油、調整一覧表 … 46
8.2　オイルの交換 …… 47
8.2.1　給油一覧表 …… 47
8.2.2　エンジンオイル …… 48
8.2.3　ギヤーボックス …… 48
8.2.4　ホイルケース …… 49
8.2.5　結束フレーム …… 49
8.3　エアクリーナの点検・清掃 …… 50
8.3.1　エアクリーナの清掃 …… 50
8.4　燃料の抜きかたおよび燃料フィルタの清掃 …… 50
8.4.1　燃料タンク内の燃料の抜き方 …… 51
8.4.2　キャブレター内の燃料の抜き方 …… 51
8.5　点火プラグの点検 …… 51
8.6　タイヤ空気圧の点検 …… 52
8.7　搬送ベルトの調整（MB225）…… 52
8.8　各チェンの調整 …… 53
8.8.1　横送り爪チェン（MB225）… 53
8.8.2　引起しチェン …… 53
8.9　刈刃の調整 …… 55
8.9.1　刈高さの調節 …… 55
8.9.2　刈刃のスキマ調整 …… 55
8.10　各レバー・ワイヤの調整 …… 56
8.10.1　メインクラッチの調整 … 56
8.10.2　走行クラッチの調整 …… 57
8.10.3　刈取クラッチの調整 …… 57
8.10.4　サイドクラッチの調整（MB225、MB215）…… 58
8.10.5　駐車ブレーキの調整（MB225、MB215）…… 58

9. 格納時の手入れ

9.1　日常の格納 …… 59
9.2　長期格納 …… 59
9.3　格納用スタンドの使い方 …… 61

10. 不調時の診断と処置

10.1　結束ミスの点検 …… 62

11. 付表

11.1　推奨潤滑油一覧表 …… 65
11.2　主要諸元 …… 66
11.3　主な消耗部品一覧表 …… 69

1. 使用上のポイント

本バインダを正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

このバインダを正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

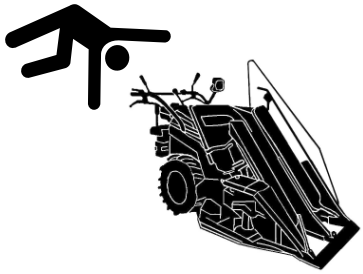
1.1.1 運転者の条件

⚠ 警 告

こんなときは、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

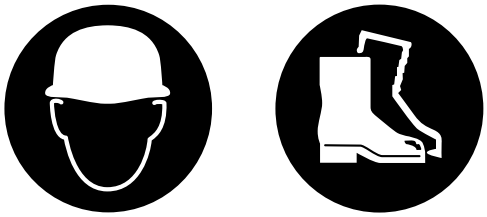
※ 守らないと、誤操作による傷害事故の原因になります。



作業に適した服を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

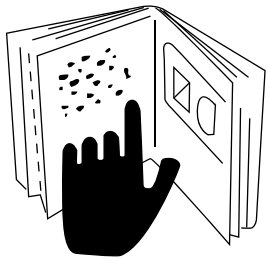
※ 守らないと、回転部への巻き込まれや転倒等による傷害事故の原因になります。



バインダを貸すときは、正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

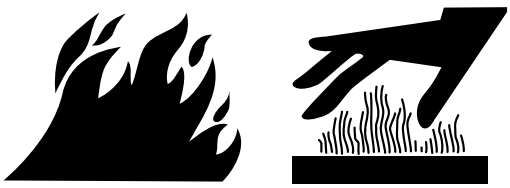
※ 守らないと、誤操作による傷害事故の原因になります。



1.1.2 作業をする前に

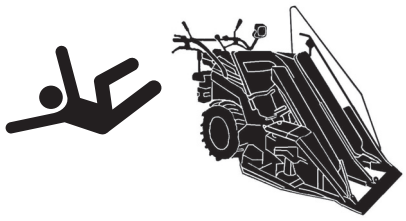
⚠ 危険

エンジン停止後、エンジンが熱いうちは、燃料補給しないでください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。

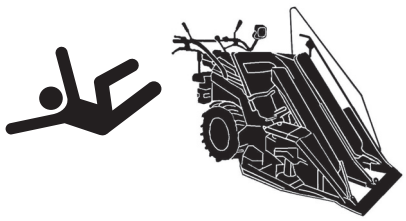


⚠ 警告

作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検・整備は必ず行ってください。
特に主変速クラッチレバーまたは走行主クラッチレバー、変速クラッチレバーの調整は忘れないでください。
※ 守らないと、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の傷害事故の原因になります。



無理のないゆとりある作業計画をたててください。
※ 守らないと、あせり等による傷害事故の原因になります。



エンジン本体、マフラ周辺、ベルトおよびプーリ周辺にたまっているワラくずは、きれいに取り除いてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。



燃料ホースの破損や、燃料もれがないか作業前に必ず点検してください。
※ 守らないと、火災の原因になります。

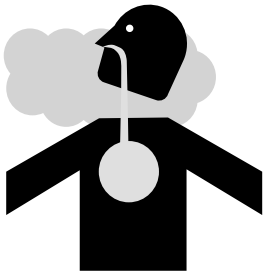


誤って燃料を飲んだり、目に入った場合は、速やかに専門医に相談してください。
※ 守らないと、身体を害する原因になります。

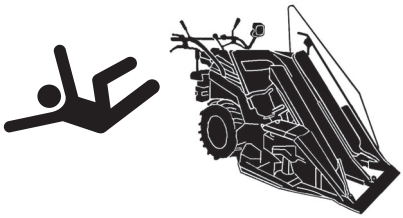
1.1.3 エンジンの始動と発進

⚠ 警 告

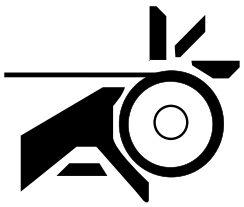
屋内で始動するときは、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等では、エンジンを始動しないでください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたる原因になります。



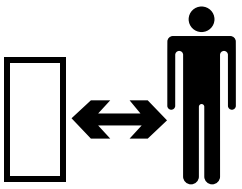
エンジンを始動するときは、主変速クラッチレバーまたは走行主クラッチレバーを「切」位置、刈取レバーを「切」位置にして、周囲の安全を確認してから行ってください。
特に子供に注意してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。
※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。



バインダを発進させるときは、前後、左右の状況を確認し、バインダの近辺に人を近づけないでください。(特に子供)
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



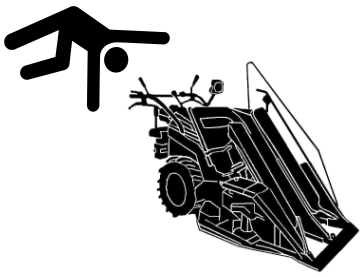
⚠ 注 意

エンジンを始動する前にリコイルスタータノブが軽く引けることを確認してください。
※ 守らないと、肩等を痛める原因になります。

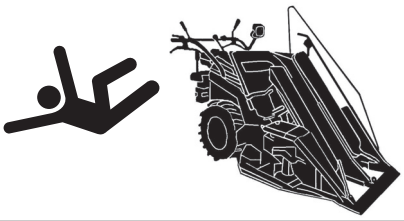
1.1.4 移動するときは

⚠ 警 告

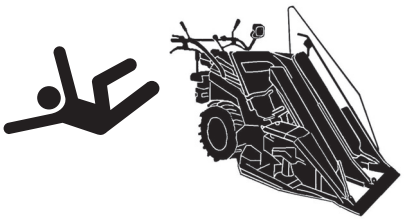
必要以上の高速運転、急発進、急停車および急旋回はしないでください。
凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。路面の状態に応じた適切な速度で走行してください。
※ 守らないと、衝突、転倒、転落事故の原因になります。



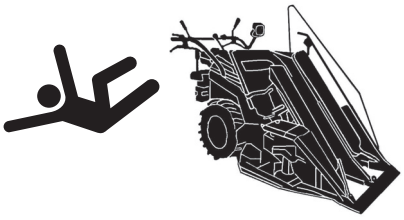
バインダの上には、絶対に人は乗せないでください。
※ 守らないと、転倒事故の原因になります。



坂道では、急な旋回をしないでください。副変速レバーを「1速」にして、低速でゆっくりと移動してください。
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因になります。



後進をするときは、後方や足もとに十分注意し、エンジンの回転を低くしてください。
※ 守らないと、機体の姿勢やバランスが急に変わり、傷害事故の原因になります。



バインダを雑草やワラの上に駐停車したまま、空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしたりしないでください。
※ 守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因になります。



始動時や運転中に点火プラグやプラグキャップおよび高圧コードに触れないでください。
※ 守らないと、感電事故の原因になります。

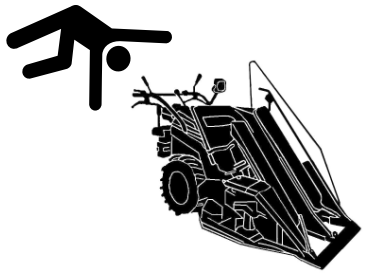


⚠ 警 告

農道では、路肩に注意してください。

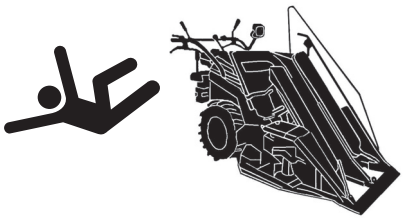
側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときには、速度を落として十分注意して走行してください。

※ 守らないと、路肩がくずれて、転倒事故の原因になります。



バインダから離れるときは、平たんな場所に駐車し、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



1.1.5 トラックへの積み・降ろし

⚠ 警 告

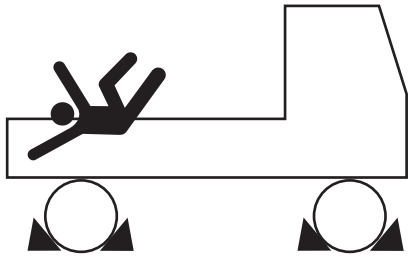
バインダを運搬するときは､燃料コックレバーを横向きに回して燃料を止めてください。

※ 守らないと、燃料が漏れ、火災を引き起こす原因になります。



トラックを使用して積み・降ろしをするときは、トラックのエンジンを停止し、変速を「1速」、または「R」にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。

※ 守らないと、積み降ろしのときに、トラックが動いて転落事故の原因になります。

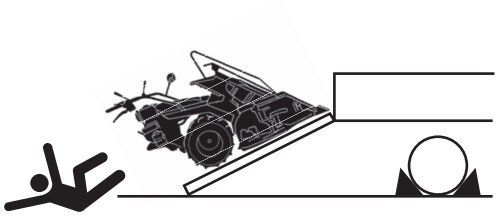


積み･降ろしはアクセルレバーを「低」にし、副変速レバーを「1速」にして、積むときは主変速クラッチレバー・変速クラッチレバーを「前進」､降ろすときは「後進」でゆっくり行ってください。

※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。

積み・降ろしの最中は、主変速クラッチレバー・変速クラッチレバーやサイドクラッチレバー、走行主クラッチレバーを絶対に操作しないでください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。



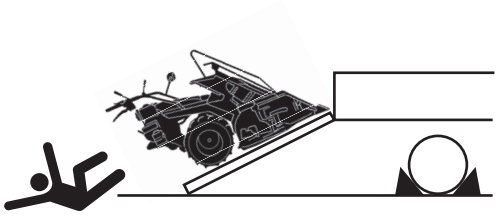
基準に合った強度のある、すべらないアユミ板を使用し、アユミ板のフックをトラックの荷台に外れないように確実にかけてください。

※ 守らないと、アユミ板が外れたりして転倒し、傷害事故の原因になります。

＜アユミ板の基準＞

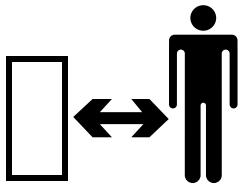
- 長さ　車の荷台高さの4倍以上。
- 幅　約30cm以上。
- 強度　300kg以上。(片側１枚)
- 数量　2枚使用。
- すべらないよう処理してあること。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

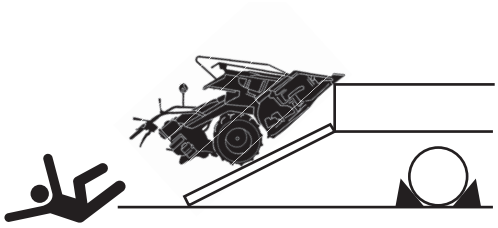


⚠ 注 意

誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。
バインダの前方や後方、真横には誘導者を絶対に立たせないでください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。



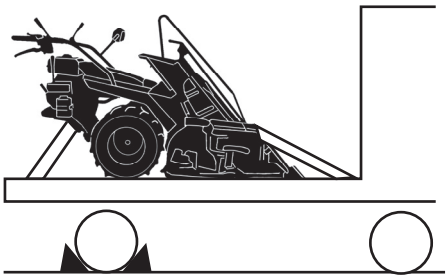
アユミ板から荷台に移るとき、また荷台からアユミ板に移るとき、急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。
※　守らないと、転落事故の原因になります。



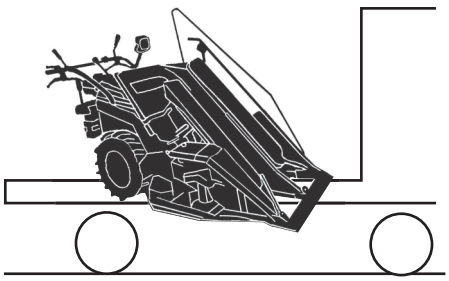
1.1.6　運搬時の注意事項

⚠ 警 告

バインダのエンジンを必ず停止し、副変速レバー「1速」、主変速クラッチレバー・走行主クラッチレバーを「入」位置にして、駐車ブレーキをかけて必ずロープ等で荷台に固定してください。
※　守らないと、転落事故の原因になります。



運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしないでください。
※　守らないと、バインダが動いて転落事故の原因になります。

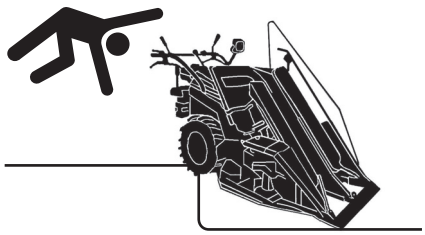


1.1.7　作業中は

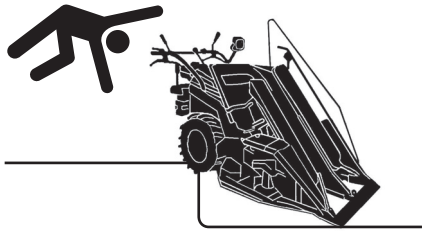
気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警 告

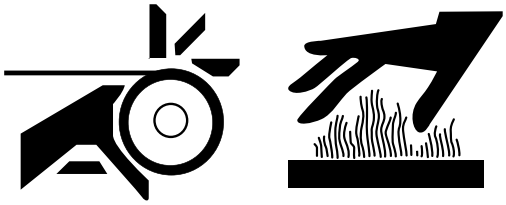
あぜの高さが高いところ（段差が10cm以上）でのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。
（☞ 6ページ）
※　守らないと、転倒、転落事故の原因になります。



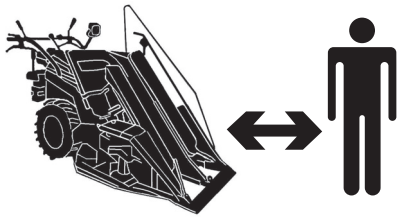
あぜを横断するときは、刈取レバーを「切」位置にして、あぜと直角にゆっくり走行してください。
※　守らないと、転倒事故の原因になります。



作業中は、回転部や、エンジン・マフラ等の高温部には手を触れないでください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

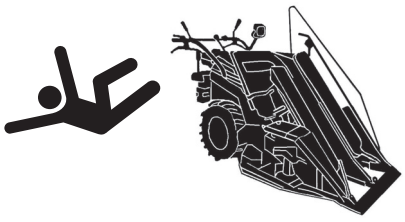


作業中は、作業者以外の人をバインダの近辺に近づけないでください。(特に子供)
※　守らないと、傷害事故の原因になります。



⚠ 注 意

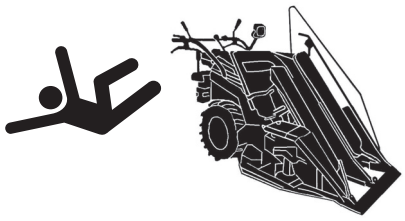
作業を開始するときは、周囲の状況を確認してください。特に補助者とともに作業するときは、声をかけ合図してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。



1.1.8 夜間作業の禁止

⚠ 警 告

夜間作業は危険なので行わないでください。
※ 守らないと、重大な傷害事故の原因になります。



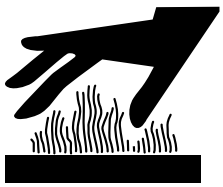
1.1.9 点検・整備

⚠ 警 告

点検・整備をするときは、マフラ等の高温部のゴミ・ホコリはきれいに取り除いてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。



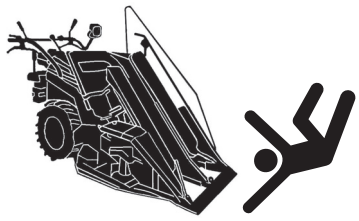
エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしないでください。
エンジン等の高温部が、十分冷めてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等による傷害事故の原因になります。



⚠ 警 告

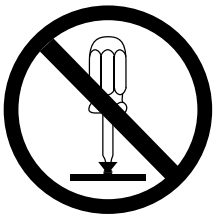
点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



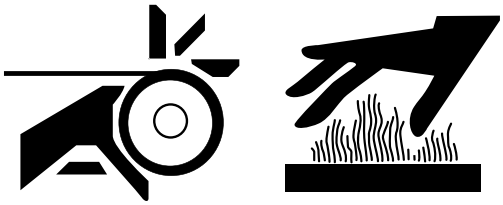
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

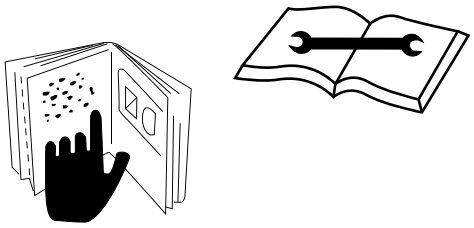
※ 守らないと、回転部や高温部がむき出しになり、傷害事故の原因になります。



⚠ 注 意

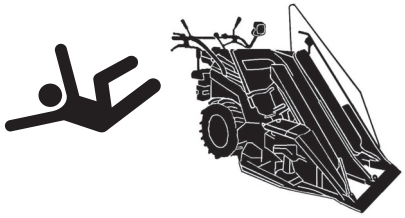
点検・整備を行うときは、必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による事故の原因になります。



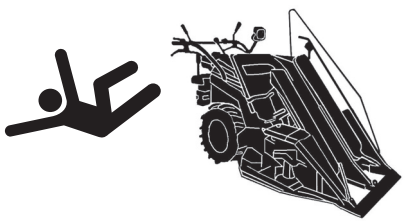
点検・整備をするときは、硬く平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



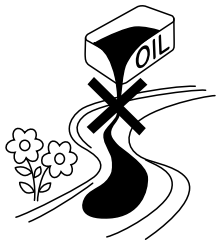
点検・整備をするときは、十分な明るさを確保して行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因になります。



⚠ 注 意

バインダから廃液を抜くときは、容器で受けてください。
廃液、燃料、ゴム類その他の有害物を廃棄、焼却するときは、お買いあげ先または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染による健康被害の原因になります。



1.1.10 格納・保管時は

⚠ 警 告

作業が終了して、シートカバー等をバインダにかけるときは、高温部が十分冷めてから行ってください。
※ 守らないと、火災の原因になります。

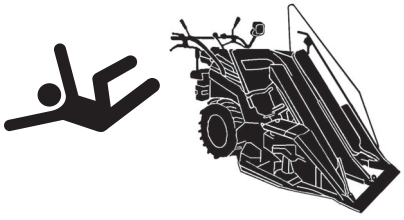


燃料ホースの破損や、燃料もれがないか保管前に必ず点検してください。
※ 守らないと、火災の原因になります。



⚠ 注 意

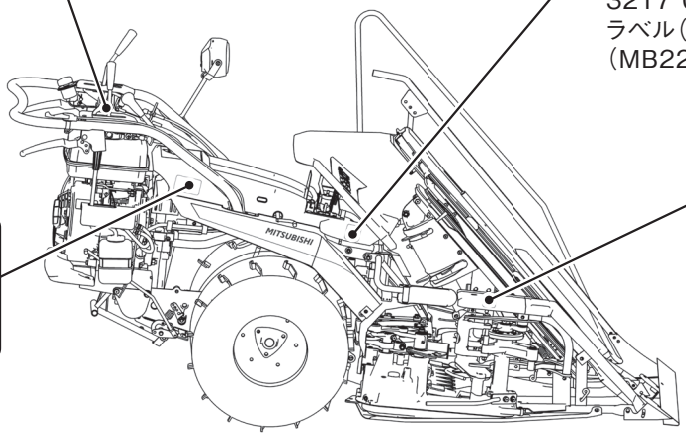
バインダの格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。

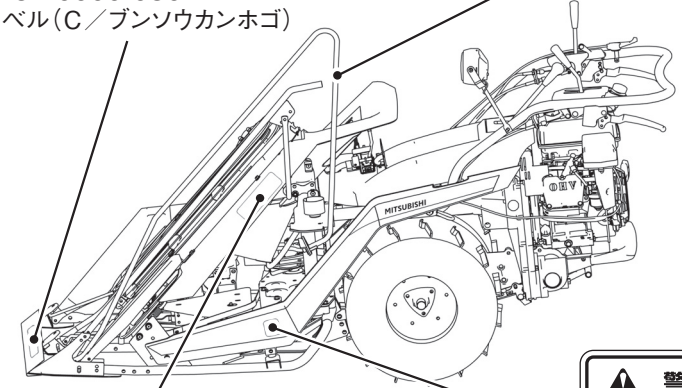


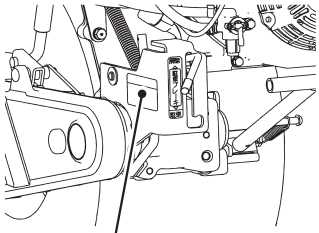
1.2　警告ラベルについて

- 本バインダには、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。
  必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルが破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。
- 汚れた場合は、きれいに拭き取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に警告ラベルをお買いあげ先へ注文ください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。
- 警告ラベルは、お買いあげ先にご注文ください。

1.3 警告ラベル貼付位置







注意 | 警告 | 危険
マフラー 高温注意 | 排ガスに注意 | 火気厳禁
さわるとやけどをするおそれがあります。
室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。
・給油時エンジン停止
・火災の危険あり
・給油口に火を近づけないこと。
無鉛ガソリン

9744 0000 020
ラベル（コーション）

注 意
運転中にカバーを開けると、駆動しているベルトに接触しケガをするおそれがありますので、カバーは開けないでください。
4148-901-034-0

3217 0000 160
ラベル（チュウイ/ベルト）
（MB225のみ使用）

警 告
やけどをするのでマフラにさわらないでください。
1675-905-007-0

9020 7158 870
ラベル（ケイコク/マフラ）

注 意
ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。
3533-901-015-0

9731 0000 070
ラベル（チュウイ/ハンド）

注 意 移動時は装着してください
3533-901-028-0

9731 0000 080
ラベル（C／ブンソウカンホゴ）

注 意 移動時は収納してください。
3533-901-027-0

3217 0000 080
ラベル（C／シュウノウ）

注 意
駐車の際は転倒のおそれがありますので、車輪を上下調節してソリ面を接地させてください。
3533-901-079-0

9734 0000 030
ラベル（チユウイ／パーキング）
（MB115のみ使用）

警 告
運転操作をする前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。
1．すべてのカバー・キャップ類を所定の位置に取りつけてください。
2．子供や機械を使わない人を近付けないでください。
3．点検、整備、給油をする時は、必ずエンジンをとめてください。
4．回転物には、手足や衣服を近付けないでください。
5．排気ガス中毒防止のため、十分換気に注意してください。
6．後進時、後に障害物がないことを確認してください。
7．傾斜地や悪条件の土地での作業は、安全に十分注意してください。
3537-901-089-0

3217 0000 060
ラベル（ケイコク／ドライブ）

警 告
刈刃に接触し、ケガをする危険性があります。手や足を近づけないでください。
3680-901-003-0

9731 0000 140
ラベル（ケイコク／ナイフ）

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

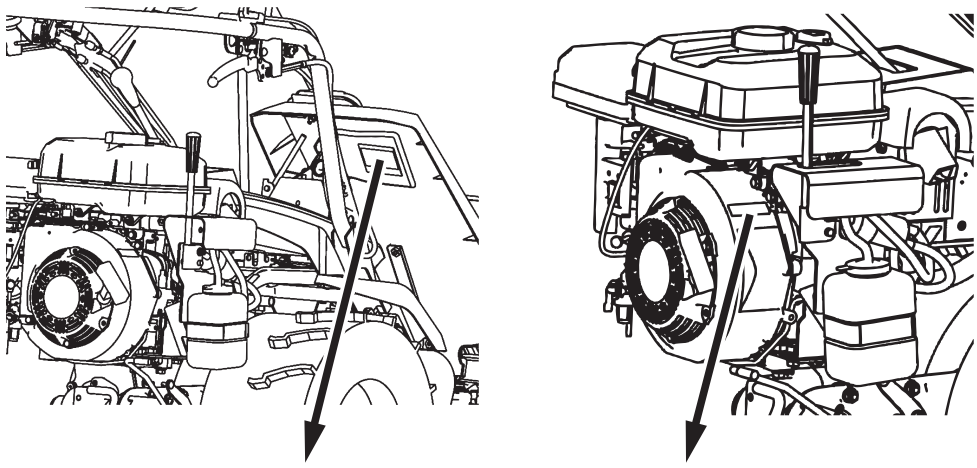
この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。
その際、

(1) 販売型式名と製造番号

(2) エンジン型式名とエンジン機関番号を併せてご連絡ください。



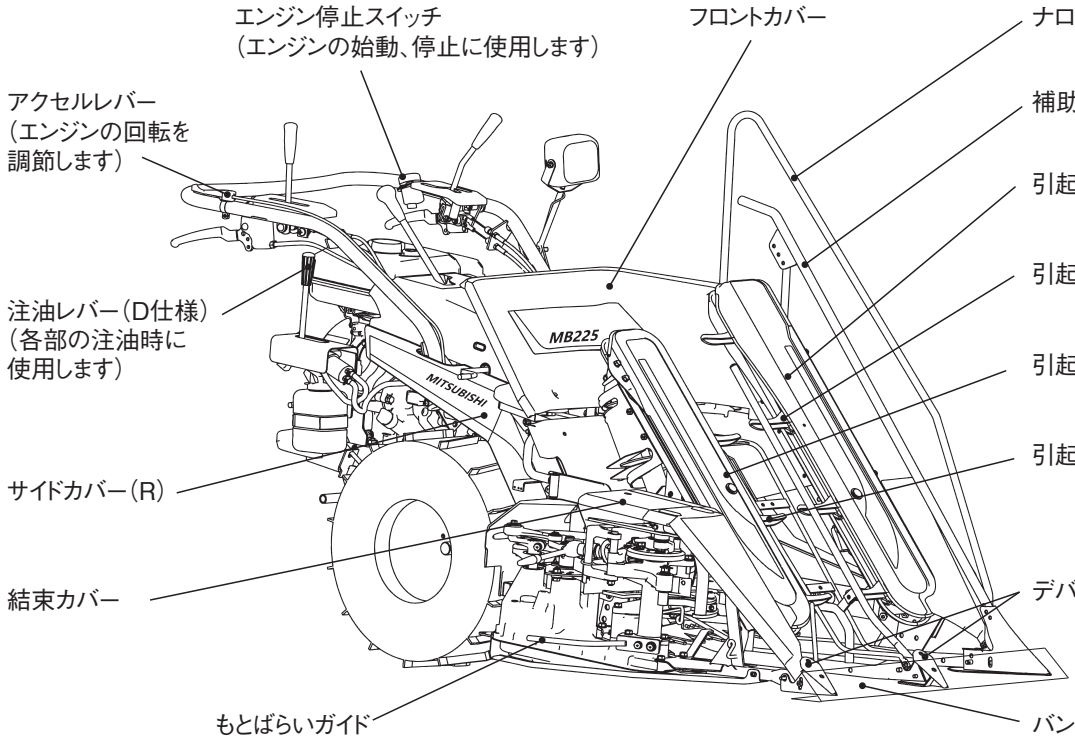
2.3 補修用部品供給年限について

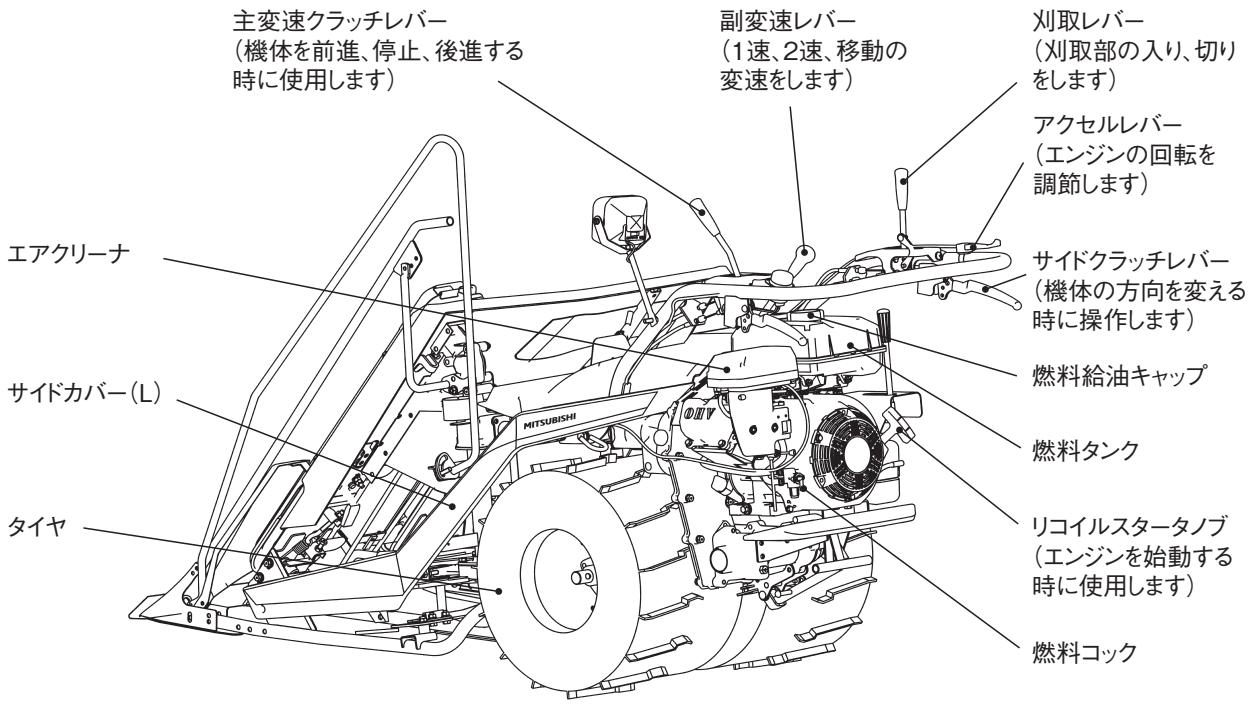
- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合があります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

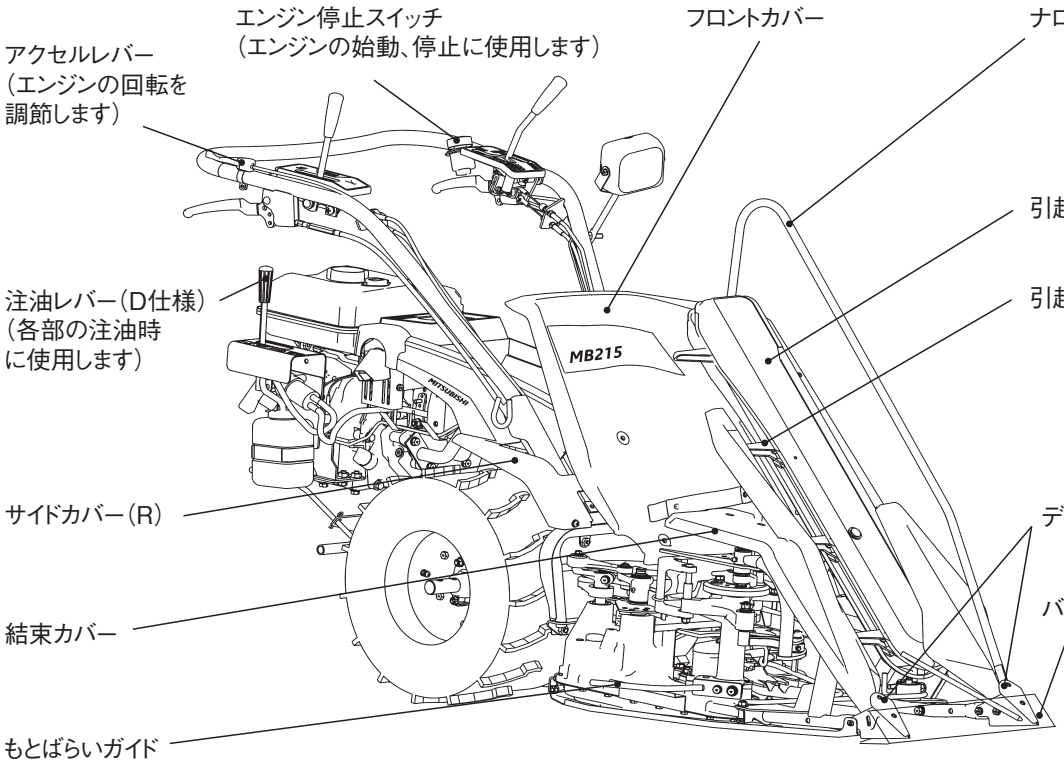
3.1.1 MB225

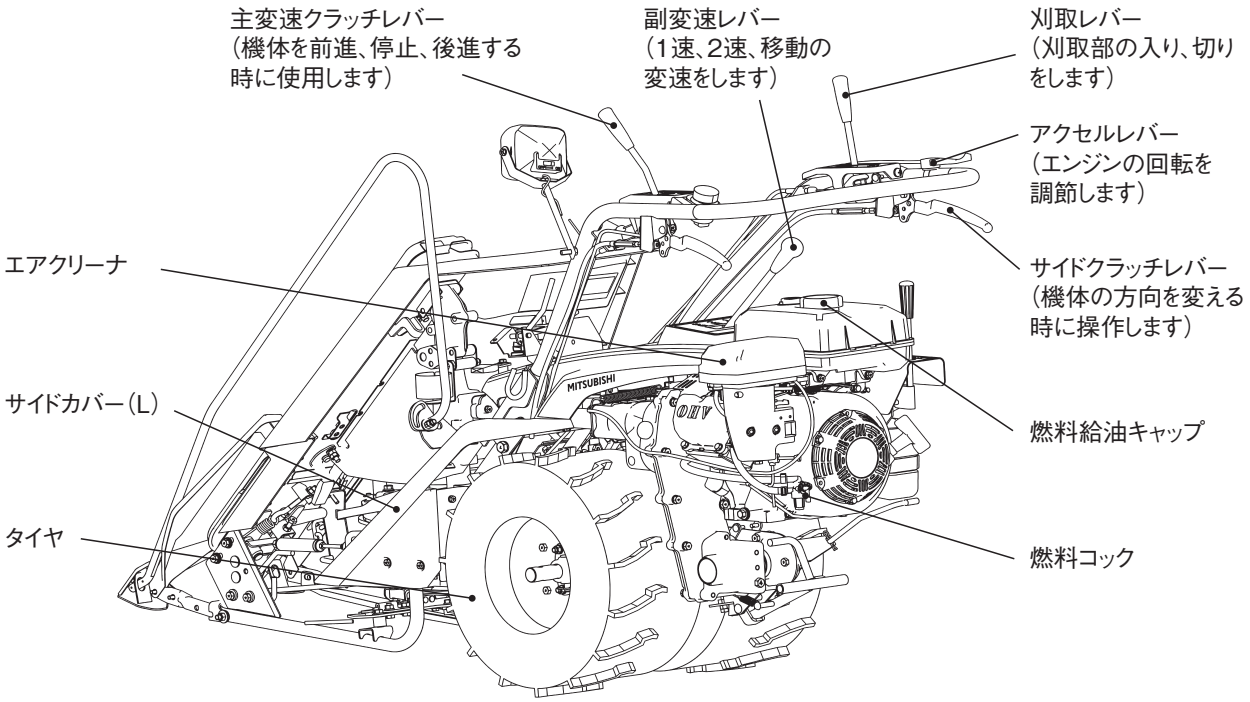




※イラストはMB225-DH

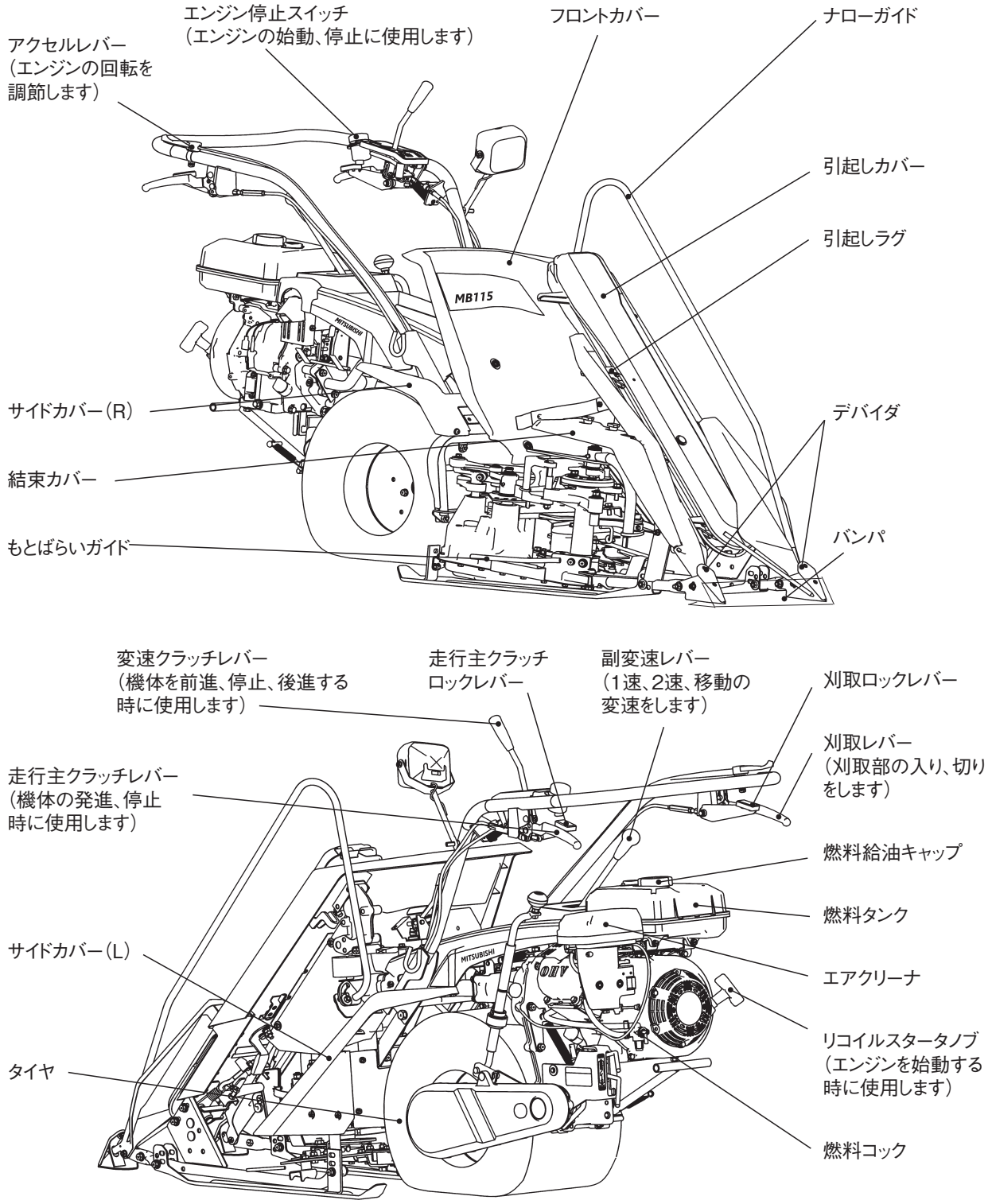
3.1.2 MB215





※イラストはMB215-D

3.1.3 MB115



※イラストはMB115

4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危 険

給油・注油および点検整備は、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因になります。

⚠ 警 告

給油・注油および点検整備は、エンジン停止後すぐに点検・整備をしないでください。
エンジン等の高温部が十分冷めてから行ってください。
※　守らないと、やけど等による傷害事故の原因になります。

給油・注油および点検整備は、必ずエンジンを停止し、主変速クラッチレバーまたは走行主クラッチレバーを「切」位置にし、刈取レバーを「切」位置にしてください。
※　守らないと、巻き込まれ、挟まれ等、傷害事故の原因になります。

⚠ 注 意

給油・注油および点検整備は、硬く平たんな広い場所で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。

4.1　給油、注油箇所の点検と補給

4.1.1　燃料

⚠ 危 険

燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因になります。

燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し、高温部が十分冷めてから行ってください。
※　守らないと、燃料のつぎこぼし等により、火災の原因になります。

燃料を入れるときは､フィルタ内にある赤印枠（油面上限）を越えないようにしてください。
燃料がこぼれたときは必ず拭き取ってください。
※　傾斜時に燃料給油キャップから燃料があふれ、こぼれた燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。

給油の際、燃料缶を使用する場合は、ガソリン用のものを使用してください。
給油のときは、燃料缶に記載された注意事項に従ってください。
※　守らないと、火災の原因になります。

■燃料（無鉛ガソリン）の給油

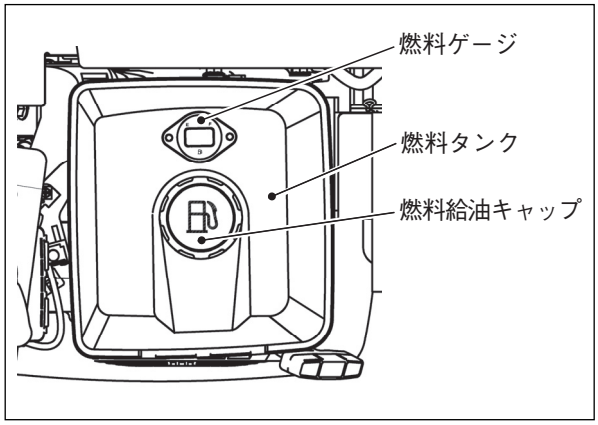
1　燃料タンクの燃料給油キャップを外し、フィルタ（こし網）を通して給油します。

2 燃料ゲージで燃料の給油量を確認します。
フィルタ内の赤印枠（油面上限）を越えないように給油します。
燃料は、自動車用無鉛ガソリンを使用してください。

- 燃料タンクには下記量が入ります。

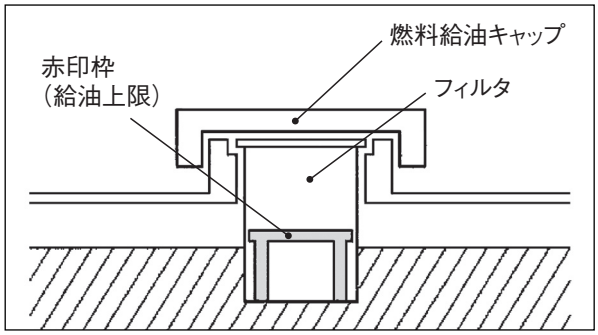
3.6L

給油後、燃料給油キャップは確実に閉めます。



補 足

- **燃料タンク内にゴミなどが入らないよう、給油時はフィルタを取らないでください。**
- **機体を水平にした状態で給油してください。**



4.1.2 エンジンオイル

⚠ 注 意

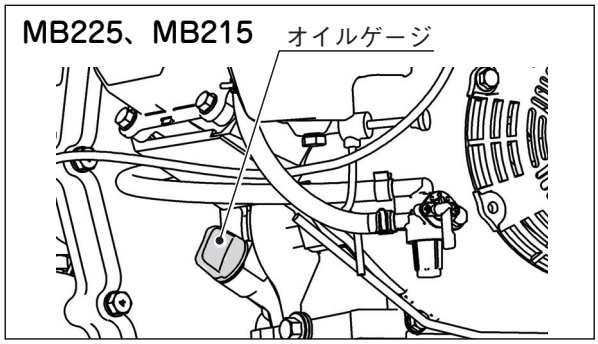
エンジンオイルの点検・補給は、エンジン等の高温部が十分冷めてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等の原因になります。

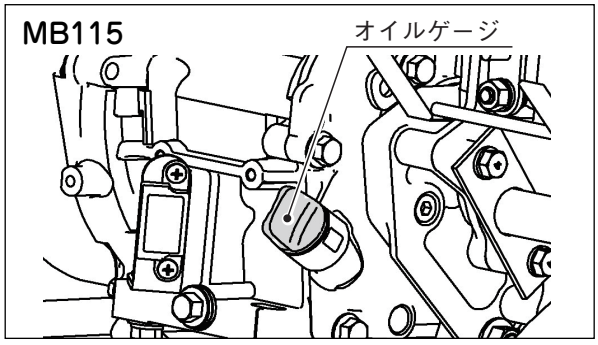
■エンジンオイルの点検、給油

1 オイルゲージを抜いてオイルをきれいに拭き取り、ねじ込まないで給油口に差し込みます。

2 再度抜いて、ゲージの格子模様部分にオイルがついているか確認します。
格子模様の範囲が上限と下限になり、範囲内にあれば正常です。

3 下限以下の場合、または作業中下限以下になりそうな場合は、上限まで補給します。





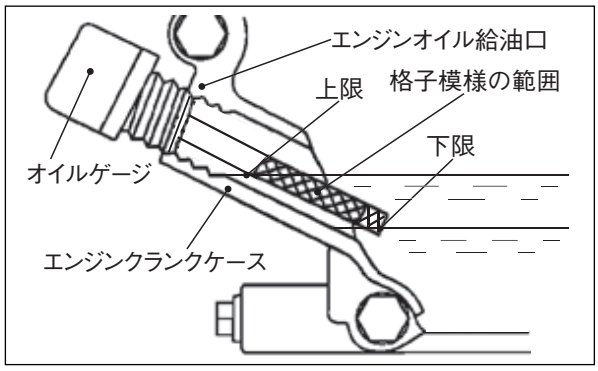
補 足

- **MB225、MB215はエンジン左側、MB115はエンジン右側にオイルゲージがあります。**
- **エンジンが水平になるように刈取部の下に枕木などをいれた状態で、給油・検油してください。**

エンジンオイルは、エンジンオイル10W-30SF級以上を補給してください。

補 足

- **オイル給油口周りのゴミや汚れを取ってからオイルゲージを抜いてください。**
- **取り外したオイルゲージは、砂・ゴミ等が付かない場所に置いてください。**
- **給油口と検油口は兼用になっています。**
- **給油・検油をした後は、オイルゲージを確実に締付けてください。**



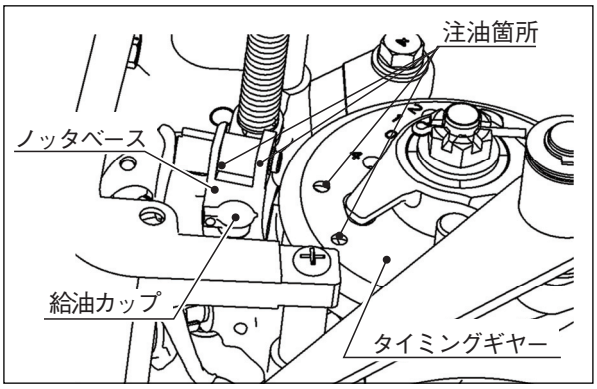
4.1.3 オイル注油・潤滑剤塗布箇所

20～30アール使用毎または1日1回、次の箇所にエンジンオイル10W-30を注油してください。

補 足

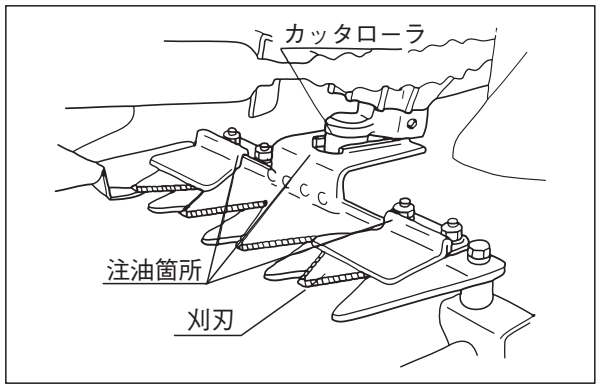
- **注油箇所には目印として黄色の塗料が塗ってあります。**

■ノッタベース、タイミングギヤー部



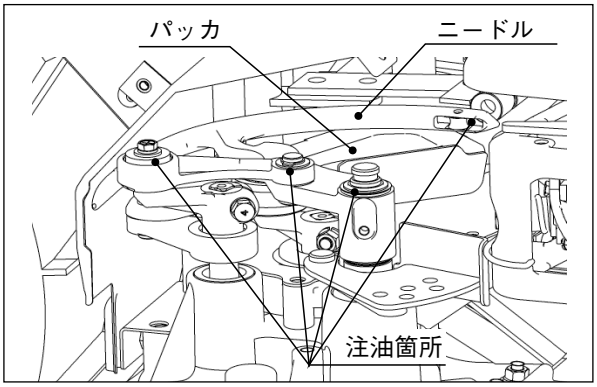
MB225-D、MB215-Dは、ノッタベースの注油は集中注油装置による注油です。
（☞ 21ページ）

■刈刃部

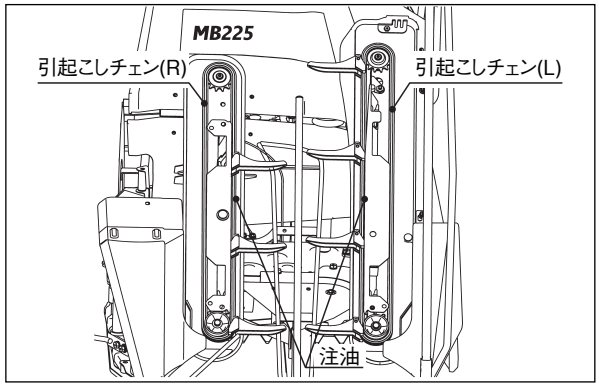


MB225-D、MB215-Dは、集中注油装置による注油です。（☞ 21ページ）

■ニードル、パッカ部

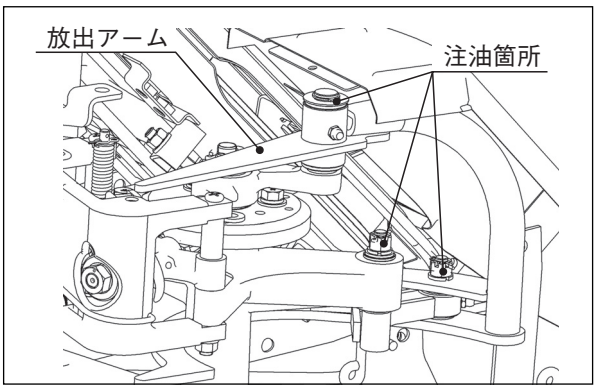


■MB225引起しチェン部

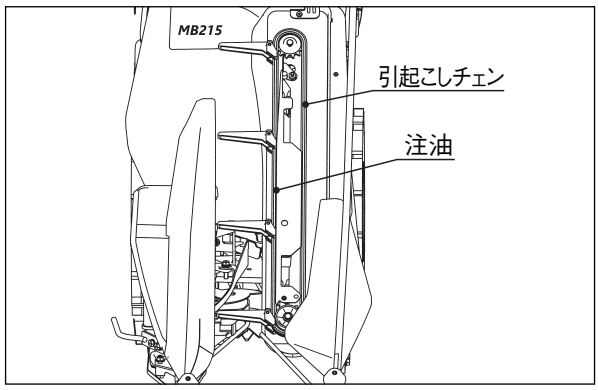


MB225-Dは、集中注油装置による注油です。
（☞ 21ページ）

■放出アーム部

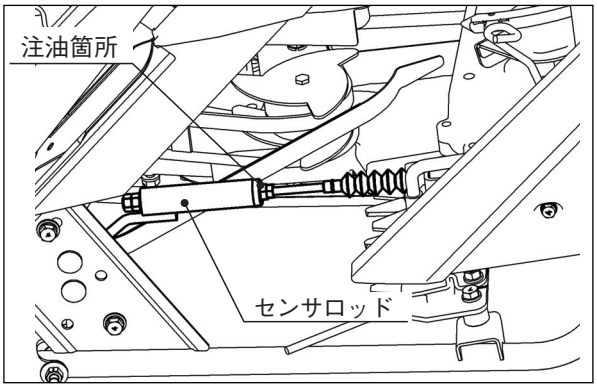


■MB215、MB115引起しチェン部



MB215-Dは、集中注油装置による注油です。
（☞ 21ページ）

■センサロッド部（MB225-D、MB215-D）

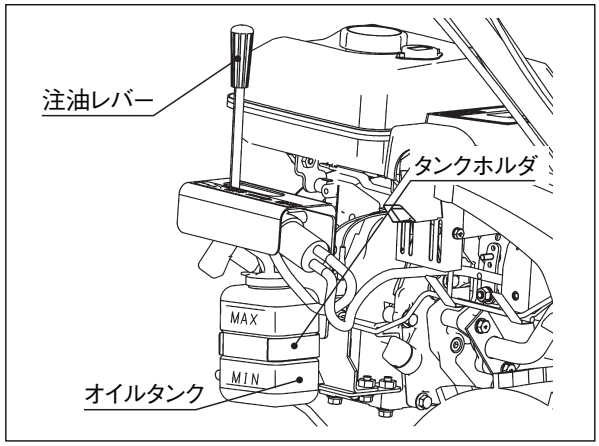


■集中注油装置による注油（MB225-D、MB215-D）

1 オイルタンクをタンクホルダより取外し、エンジンオイル10W-30を規定線（MAX）まで入れた後、タンクホルダにセットします。

- オイルタンクには下記量が入ります。

0.5L



補 足

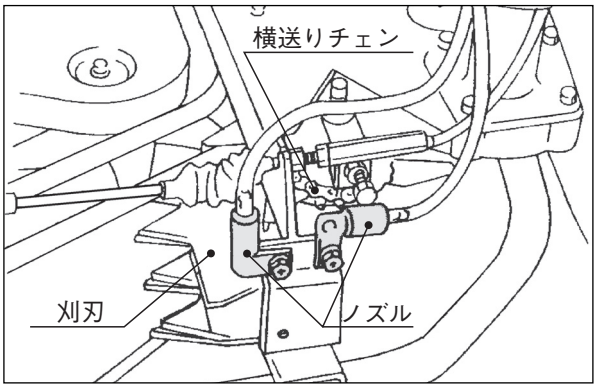
- **オイルは新しいものをご使用ください。廃油を使用しますと注油ノズルや配管内等に異物が詰まり、確実な注油が出来なくなることがあります。**

2 最初に使用するときは、配管内にオイルが行き渡るまで注油レバーを前に押します。

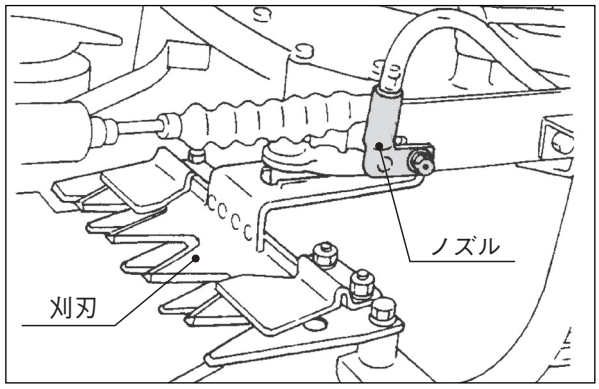
3 注油は1日1回または20～30アールごとに注油レバーを1～2回押して行います。

4 集中注油箇所
注油レバーを1～2回押すと次の箇所に適量のオイルが注油されます。

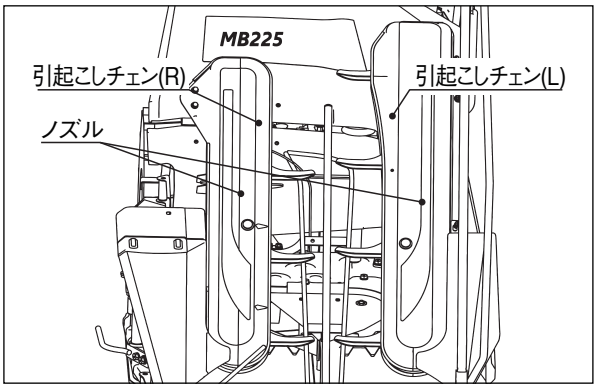
■横送りチェン部、刈刃部（MB225-D）



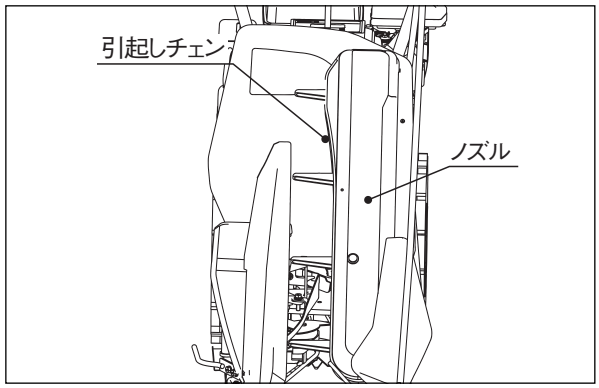
■刈刃部（MB215-D）



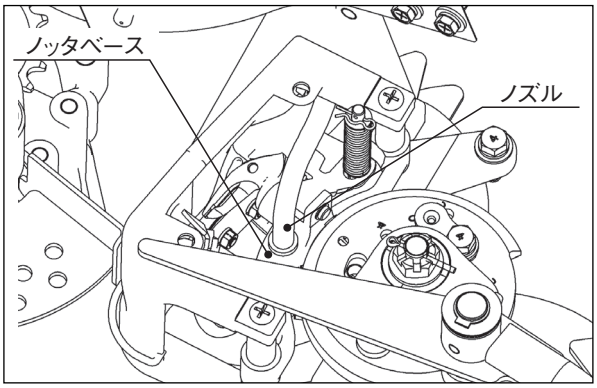
■引起しチェン部（MB225-D）



■引起しチェン部（MB215-D）

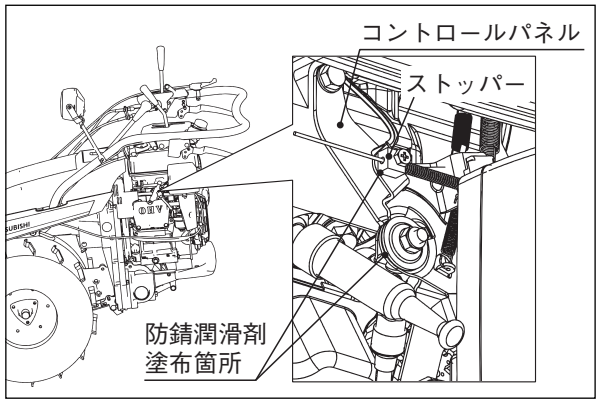


■ノッタベース部（MB225-D、MB215-D）



■防錆潤滑剤塗布箇所

コントロールパネルのストッパー部とスロットル回動部に防錆潤滑剤を塗布します。



5.　運転のしかた

⚠ 警 告

始動する前に保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。
※　守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
※　守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたる原因になります。

エンジンを始動するときは、必ず変速レバーやその他のレバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。
※　守らないと、急発進したりして傷害事故の原因になります。

エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

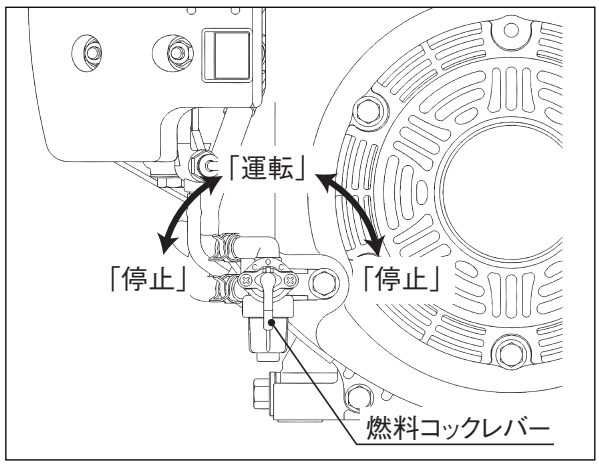
5.1　エンジン始動と停止のしかた

5.1.1　エンジン始動のしかた

⚠ 注 意

リコイルスタータノブを引っ張る前に、手が人や物に当たらないかよく確かめてください。
※　守らないと、思わぬ事故の原因になります。

1 燃料コックレバーを「0　運転」位置にします。



2 エンジン始動時は各操作レバーを次の位置にします。

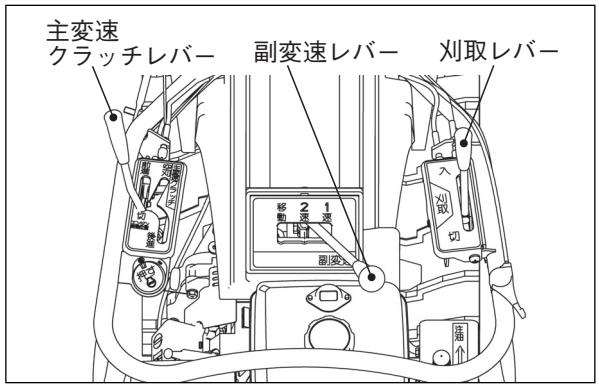
〈MB225、MB215〉
副変速レバーを「１速」位置にし、刈取レバーを「切」、主変速クラッチレバーを「切・エンジン始動位置」にします。

〈MB115〉
副変速レバーを「１速」位置にし、変速クラッチレバーを「エンジン始動位置」にして、刈取レバー、走行主クラッチレバーを「切」（握る）位置にします。

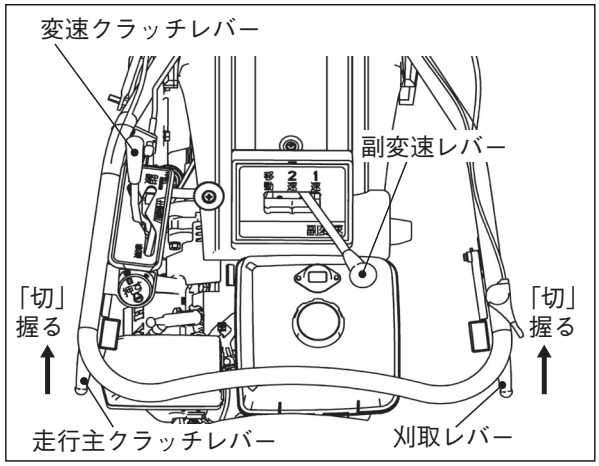
補 足

- **MB225、MB215は、主変速クラッチレバーを「切・エンジン始動」位置に、MB115は、走行主クラッチレバーを「切」（握る）位置にしないとエンジンが始動しません。**

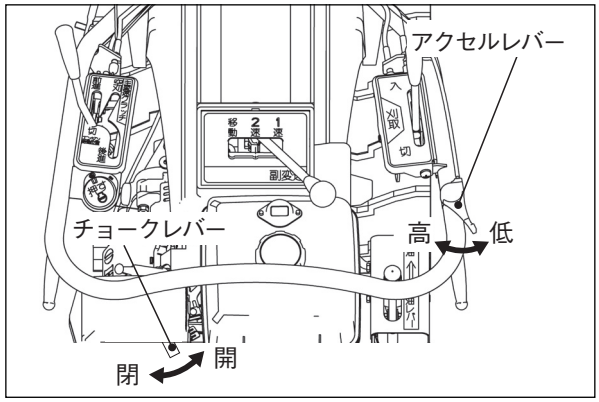
MB225、MB215



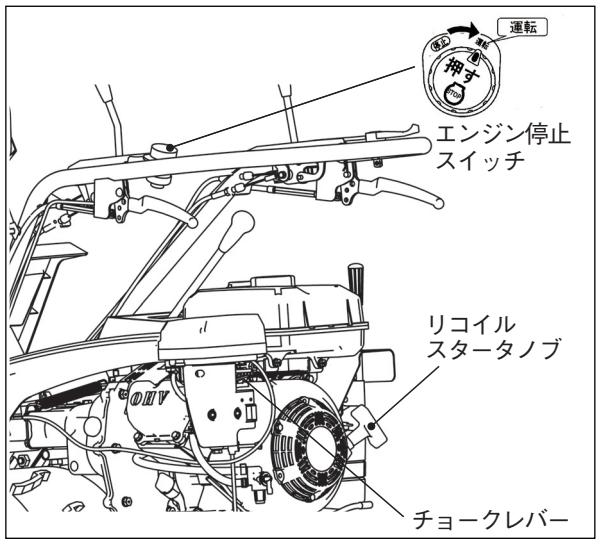
MB115



3 アクセルレバーを「高」側に1/3まわし、チョークレバーを「閉」の位置にします。エンジンが暖まった状態から再始動するときはチョークレバーを「全開」または「半開」にします。



4 エンジン停止スイッチを「運転」位置にして、リコイルスタータノブを勢いよく引っ張って、エンジンを始動させます。



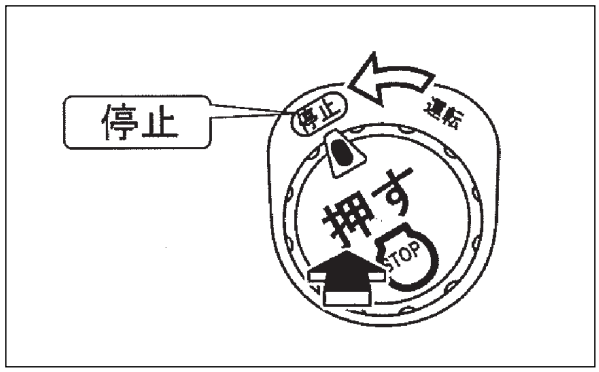
5 エンジン始動したら、エンジン回転の調子を見ながらチョークレバーを徐々に戻します。（「全開」位置）そのまま3～5分間暖機運転をしてから作業を始めます。

補 足

- **3回引っ張ってもエンジンが始動しない場合は、そのままでリコイルスタータノブを引っ張ると燃料の吸いすぎとなり、始動困難になりますのでチョークレバーを「全開」に戻してリコイルスタータノブを勢いよく引っ張ってください。**
- **バインダ各部のならし運転のために、約20アール程度使用するまでは、エンジンを高速回転にしないでください。**

5.1.2 エンジン停止のしかた

エンジン停止スイッチを押して「停止」位置にします。



5.2 発進、停止のしかた

5.2.1 発進、停止のしかた

⚠ 警 告

側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を移動するときは、速度を落とし、十分注意して移動してください。
※ 守らないと、路肩が崩れて、転倒したりして傷害事故の原因になります。

バインダから離れるときは、必ずエンジンを停止し、止めるところは地面が硬く広い平たんな場所を選んでください。
※ 守らないと、バインダが自然に動き出したりして、傷害事故の原因になります。

凹凸の激しい場所での高速移動はしないでください。
路面状態に応じた適切な速度で移動してください。
※ 守らないと、衝突、転倒、転落事故の原因になります。

坂道や傾斜地では、主変速・変速クラッチレバーやサイドクラッチレバー、走行主クラッチレバーを絶対に操作しないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

バインダの上には、絶対に人は乗せないでください。
※ 守らないと、人が転落したりして傷害事故の原因になります。

バインダを雑草やワラの上に駐停車したまま、空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしたりしないでください。
※ 守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因になります。

⚠ 注 意

後進時、後ろに障害物が無いことを確認して、アクセルレバーは低速で使用してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。

注 意

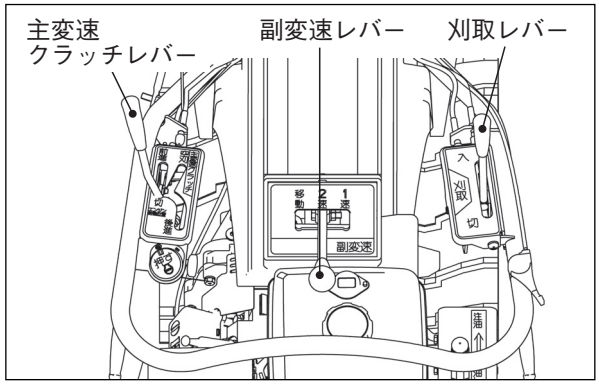
駐車ブレーキをかけたままで、絶対に走行しないでください。
※ 守らないと、故障、破損の原因になります。

■MB225、MB215

1 主変速クラッチレバーを「切」位置、刈取レバーを「切」位置にして副変速レバーを所定の位置（1速、２速、移動）にします。

補 足

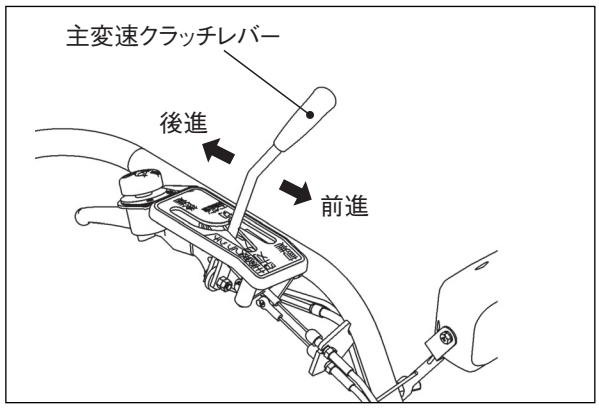
- **副変速レバーでの変速は、主変速クラッチレバーを「切」位置にして、機械が停止してから行ってください。**



2 主変速クラッチレバーを「前進」位置にすると前進し､「後進」位置にすると後進します。

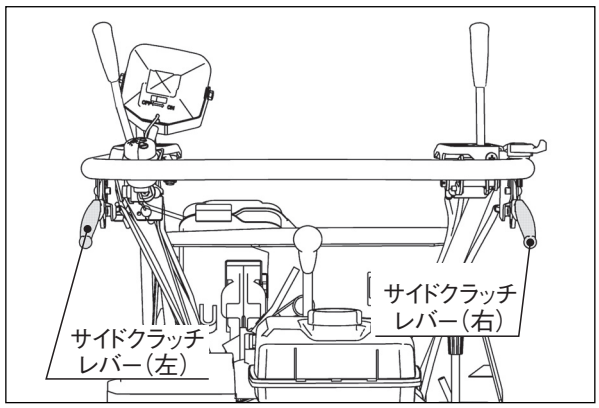
補 足

- **刈取をしない移動のときは、刈取レバーを「切」位置にしてください。**

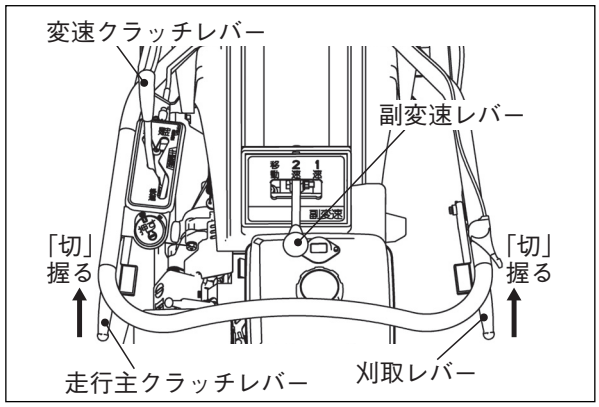


3 主変速クラッチレバーを「切」位置にすると停止します。

4 旋回時は、旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを握ります。



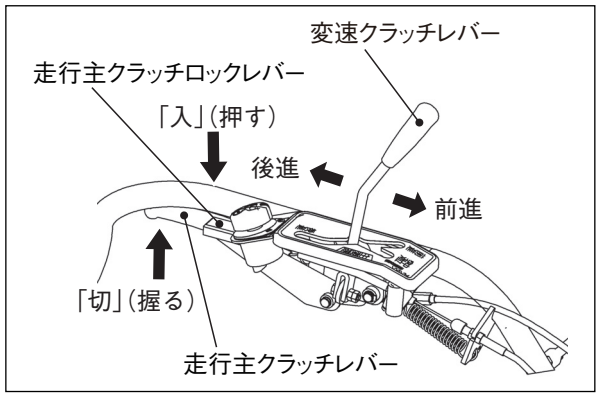
■MB115



1 走行主クラッチレバー、刈取レバーを「切」（握る）位置にして、副変速レバーを所定の位置（1速、2速、移動）にします。

補 足

- **副変速レバーでの変速は、走行主クラッチレバーを握り「切」位置にして、機械が停止してから行ってください。**



2 変速クラッチレバーを「前進」または「後進」位置にして、走行主クラッチロックレバーを押し「入」位置にすると発進します。

補 足

- **刈取をしない移動のときは、必ず刈取レバーを握り「切」位置にしてください。**

3 走行主クラッチレバーを握り「切」位置にすると停止します。
停止・駐車時は、変速クラッチレバーを「エンジン始動位置」にします。

4 旋回時は、旋回する方向に機体をゆっくりと傾けて旋回します。

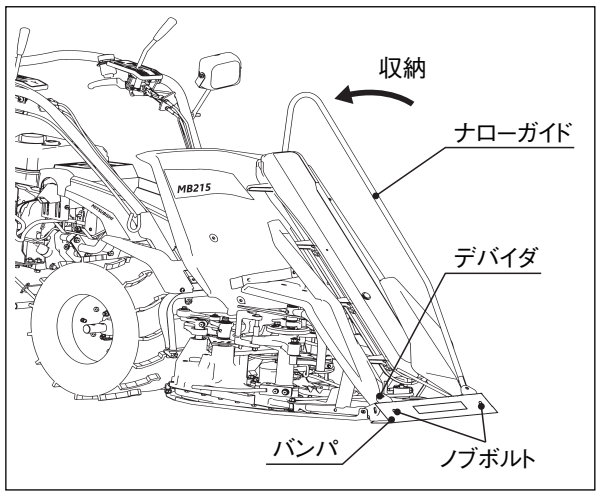
5.2.2 移動のしかた

⚠ 注 意

移動時は、常にバンパを付けてください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

1 バンパをデバイダに、ノブボルトで取付けます。

2 ナローガイドを収納します。



5.2.3 駐車のしかた

⚠ 警 告

坂道や傾斜地では駐車しないでください。
やむを得ず駐車する場合は、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、転倒など思わぬ事故の原因になります。

駐車ブレーキをかけるときは、必ず主変速クラッチレバーまたは走行主クラッチレバーを「切」位置にし、バインダが停止してから行ってください。
※ 守らないと、転倒など思わぬ事故の原因になります。

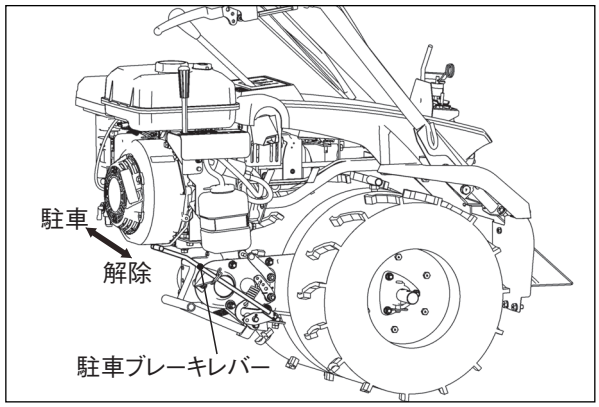
⚠ 注 意

駐車ブレーキをかけたままで、絶対に走行しないでください。
※ 守らないと、故障、破損の原因になります。

駐車の際は、車輪を上下調節してソリ面を接地させてください。(MB115)
※ 守らないと、転倒など思わぬ事故の原因になります。

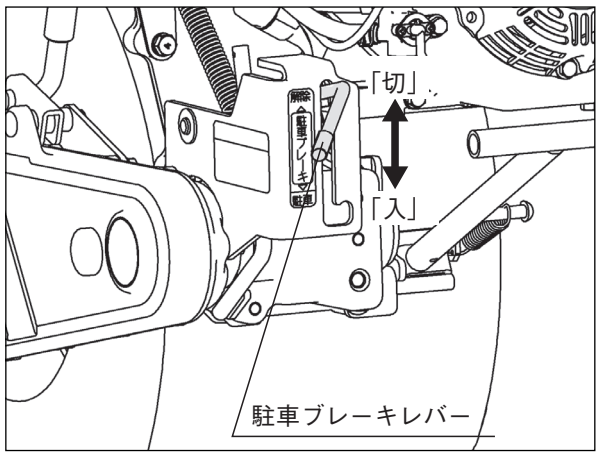
■MB225、MB215

1. 主変速クラッチレバーを「切」位置にしてバインダを停止します。
2. エンジンを停止します。(☞ 25ページ)
3. 駐車ブレーキレバーを後方に引いて駐車ブレーキをかけます。



■MB115

1. 走行主クラッチレバーを握り「切」位置にして変速クラッチレバーを「エンジン始動位置」にしてバインダを停止します。
2. 車輪を上下調節して、ソリ面を地面に接地させます。(☞ 42ページ)
3. エンジンを停止します。(☞ 25ページ)
4. 駐車ブレーキレバーを後方に引いて駐車ブレーキをかけます。



5.3 運搬のしかた

5.3.1 トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警 告

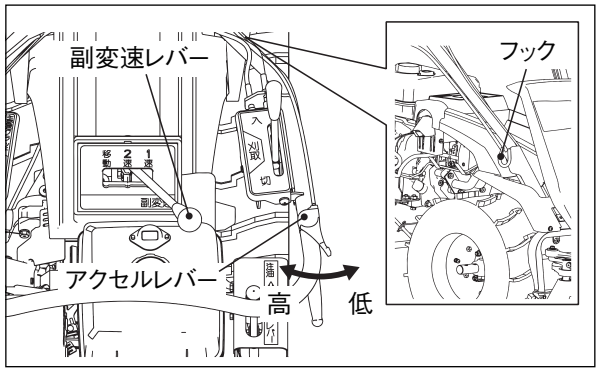
アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、また、ずれないように確実にかけてください。
※ 守らないと、転落事故の原因になります。

トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。
※ 守らないと、バインダが移動して転落事故の原因になります。

トラックを使用して積み・降ろしをするときは、トラックのエンジンを停止し、変速を「1速」、または「R」にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※ 守らないと、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

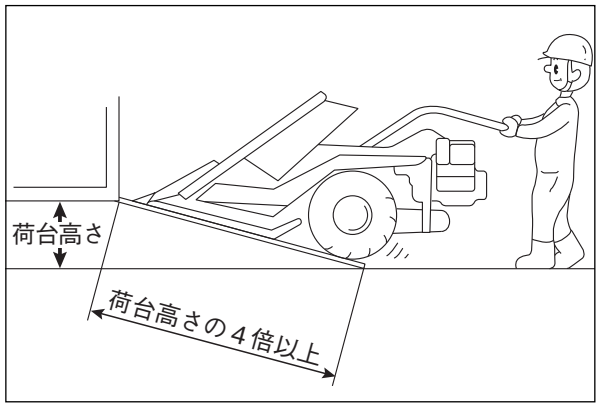
積み・降ろしの最中は、主変速・変速クラッチレバーやサイドクラッチレバー、走行主クラッチレバーを絶対に操作しないでください。
※ 守らないと、バインダが下へ走りだし、転落事故の原因になります。

1 トラックに積む時は、アクセルレバーを「低」にして、副変速レバーを「1速」位置にして前進で行います。



2 トラックに積み終えたら、バインダのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてハンドルのフックにロープをかけ荷台に固定します。

3 トラックより降ろす時は、アクセルレバーを「低」にして、副変速レバーを「1速」位置にして、後進で足元、後方をよく確かめて低速で行います。



補 足

＜アユミ板の基準＞

- **長さ　車の荷台高さの4倍以上。**
- **幅　約30cm以上。**
- **強度　300kg以上。(片側１枚)**
- **数量　2枚使用。**
- **すべらないよう処理してあること。**

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

6. 作業前の準備

6.1 結束ひもの準備

6.1.1 結束ひもの種類（準備品）

結束ひもは必ず指定ひもを使用してください。
市販のひもでは充分な性能が発揮できない場合があります。

補 足

●結束ひもは「ひも引出口」のシール側から取り出してください。

◆三菱純正指定結束ひも

ひもの種類	コードNo.		規　格
ジュートひも	3550120020	6玉入り	ジュートひも（テザック）
	3550120010	単品	
	3550110020	6玉入り	ジュートひも（コイズミ）
	3550110010	単品	
合成ひも（P.Pひも）	3550220050	6玉入り	P.Pひも（発泡）青（テザック）
	3550220030	単品	
	3550210030	6玉入り	P.Pひも（発泡）青（コイズミ）
	3550210031	単品	
サイザルひも	3550320040	6玉入り	サイザルひも（サンキョウ）
	3550320020	単品	

■結束ひもの取扱い

（1）結束ひもの取出し方向を間違うと、ひものほぐれが悪くなり、結束作業できなくなります。残った結束ひもは、取出し方向を間違わないように印をつけ、全体の形がくずれないようにして、湿気の少ない風通しのよい場所に保管してください。

（2）結束ひもは、投げたり、転がしたり、また結束ひもの上に物を乗せたり、腰かけたりすると形がくずれて、結束ひものほぐれが悪くなり、結束ミスの原因になります。

（3）ジュートひもは、ぬらさないようにしてください。ひもの強度が下がり、ひも切れによる結束ミスの原因になります。

補 足

● 合成ひも（P.Pひも）で結束した稲ワラを家畜の飼料、敷ワラに使用するときは、必ず合成ひも（P.Pひも）を取除き、ひもを家畜に食べさせないようにしてください。

6.1.2 結束ひもの通しかた

⚠ 警 告

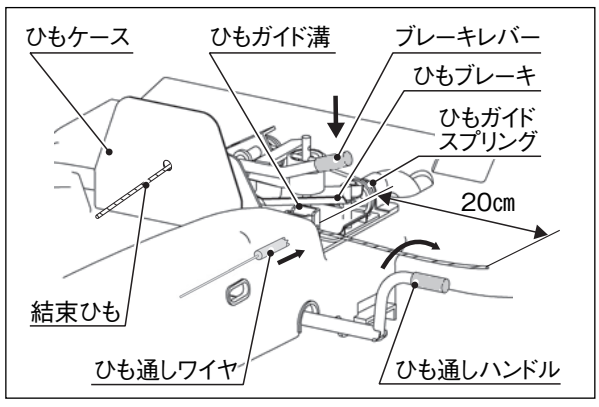
ニードル先端まで結束ひもを通すまでは、絶対にエンジンを始動させないでください。
※　守らないと、思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■MB225-D

1 結束ひもをひもケースに通し、ひもガイド溝に差し込み、ひもガイド溝より20cm引出します。

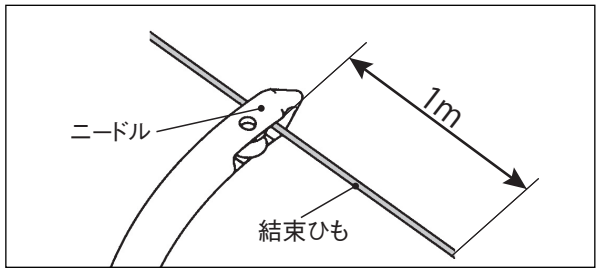
2 ブレーキレバーを押し下げます。

3 ひも通しハンドルを回し、ひも通しワイヤの先端で結束ひもを押し、ひもブレーキ、ひもガイドスプリングに通します。

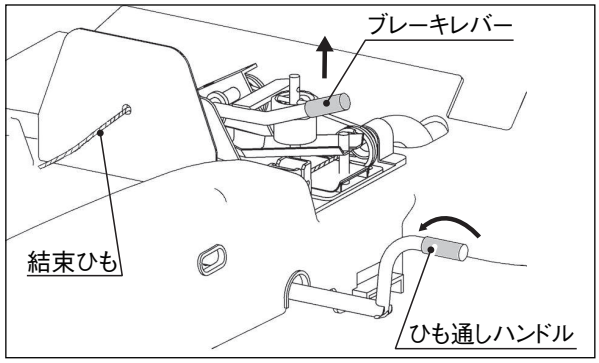


4 結束ひもがニードル先端から出るまでひも通しハンドルを回します。

5 ニードル先端から出たひもを、１mほど引出します。

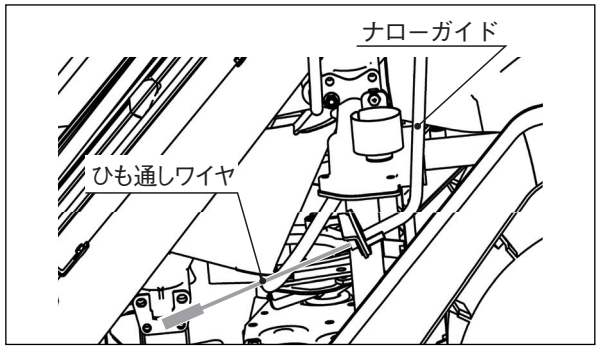


6 ひも通しハンドルが止まるまで巻き戻し、ブレーキレバーを押し上げます。



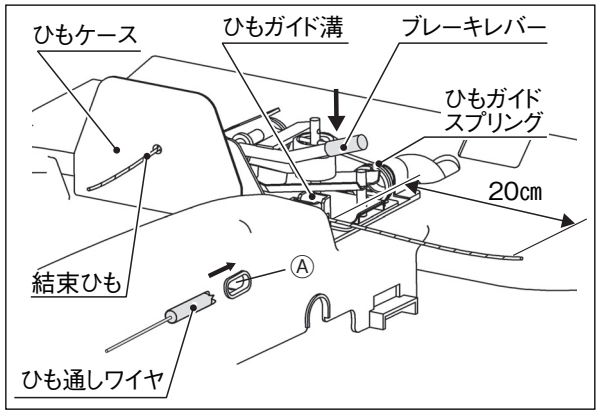
■MB225（D型を除く）

1 ひも通しワイヤをナローガイドより取出します。



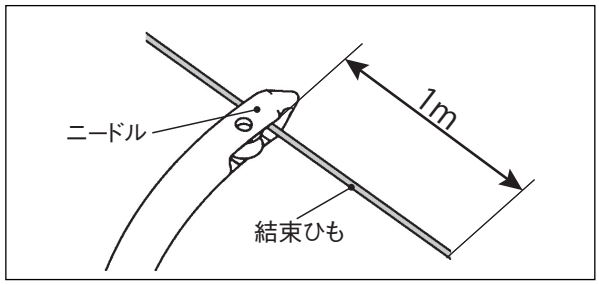
2 結束ひもをひもケースに通し、ひもガイド溝に差し込み、ひもガイド溝より20cm引出します。

3 ブレーキレバーを押し下げます。

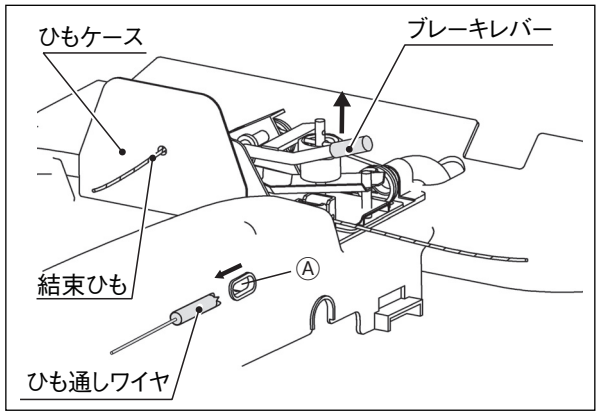


4 ひも通しワイヤを、Ⓐより押しこみひも通しワイヤの先端で結束ひもを押し、ひもブレーキ、ひもガイドスプリングに通しニードル先端より結束ひもが出るまで押しこみます。

5 ニードル先端から出た結束ひもを、１mほど引出します。

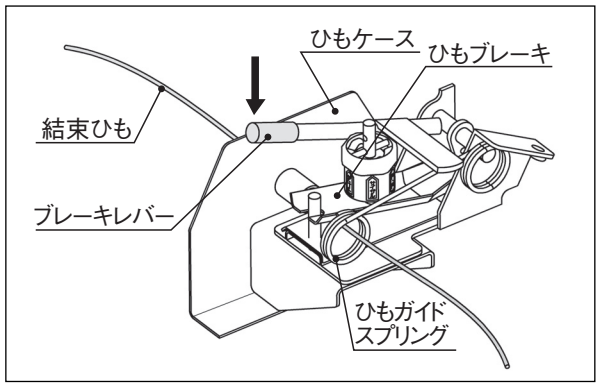


6 ひも通しワイヤを抜き、ブレーキレバーを押し上げます。抜いたひも通しワイヤはナローガイドに収納します。

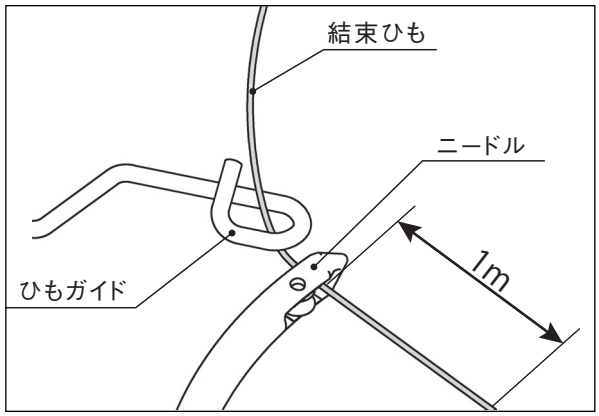


■MB215、MB115

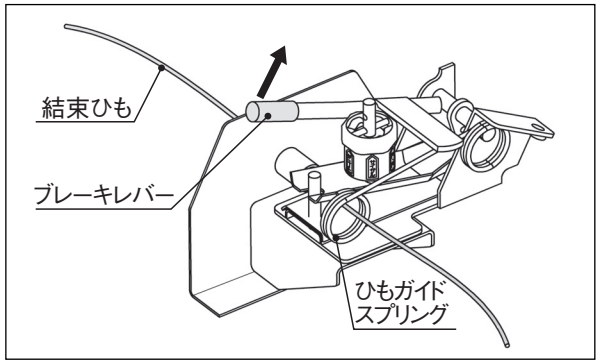
1 ブレーキレバーを押し下げ、結束ひもをひもケース、ひもブレーキ、ひもガイドスプリングに通します。



2 ひもガイドスプリング経由後、ひもガイド、ニードル先端部に通し、通した結束ひもを１mほど出します。

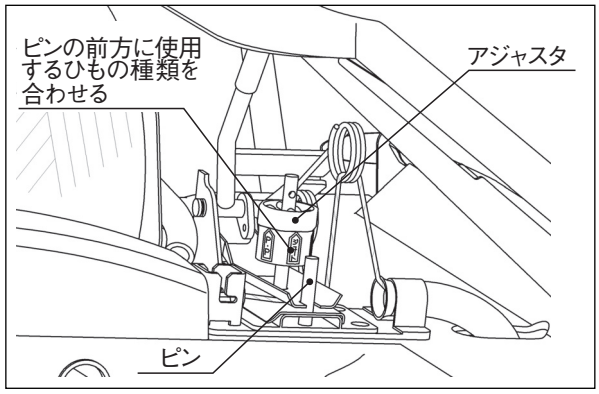


3 結束ひもを通した後、ブレーキレバーを押し上げます。



■ひもの結束

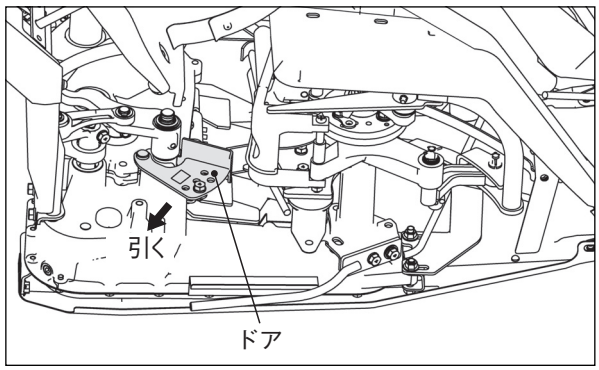
1 ひもブレーキのアジャスタをまわしてピンと使用するひもの種類を合わせます。



2 ドアを引き、結束クラッチを入れてエンジンを始動させます。

補 足

- **エンジン始動時、MB225・MB215は主変速クラッチレバーMB115は変速クラッチレバーを 必ず「エンジン始動位置」にします。**



3 結束操作を行い、結束ひもを挟持させます。

〈MB225、MB215〉

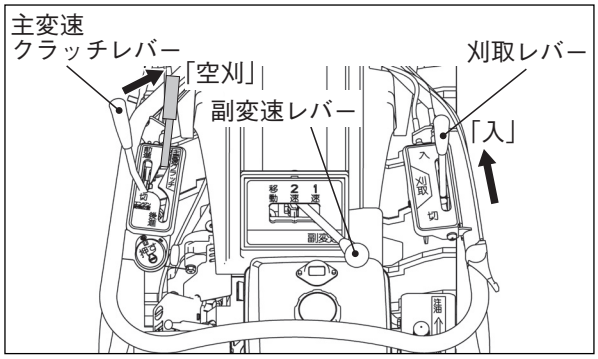
副変速レバーを「1速」位置に、主変速クラッチレバーを「空刈」位置にします。

ニードル先端まで出た結束ひもを片手で上方へ引っ張りながら、刈取レバー「入」位置にします。

補 足

- **MB225-D、MB215-Dは、刈取レバーを「手動」位置にします。**

MB225、MB215

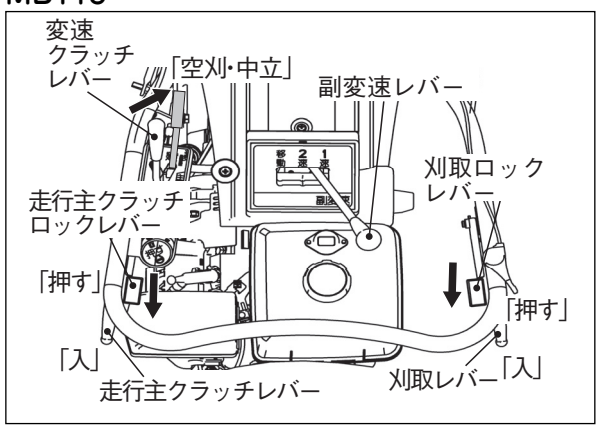


〈MB115〉

変速クラッチレバーを「空刈・中立」位置に、走行主クラッチロックレバーを押し、走行主クラッチレバー「入」位置にします。

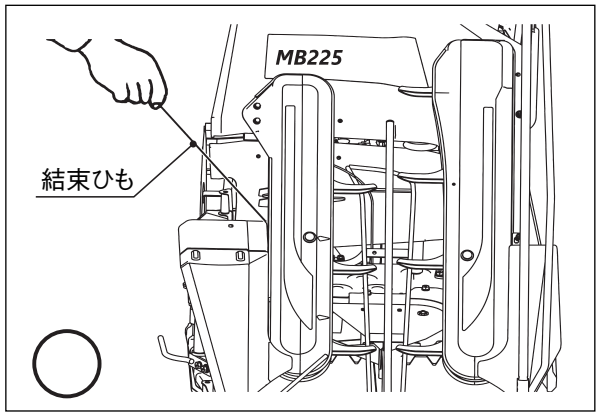
ニードル先端まで出た結束ひも片手で上方へ引っ張りながら、刈取ロックレバーを押し刈取レバーを「入」位置にします。

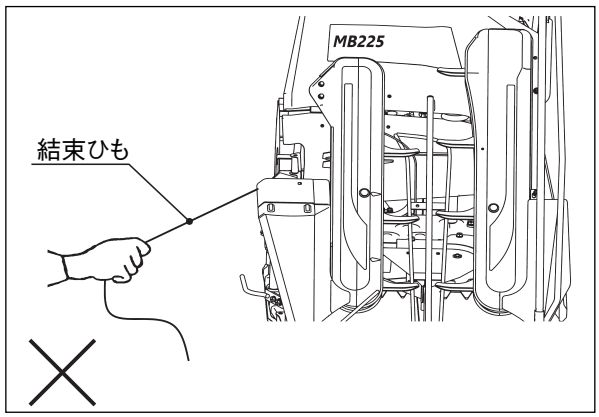
MB115



補 足

- **結束ひもをホルダへ挟持させるときには必ずひもを上方へ引っ張ってください。**
- **横方向、下方向に引っ張ると、ホルダスプリング部に巻付いたり、ノッタビルからひもが抜けなかったり、またホルダがひもを挟持しない場合があります。**





6.1.3 ハンドル高さの調節

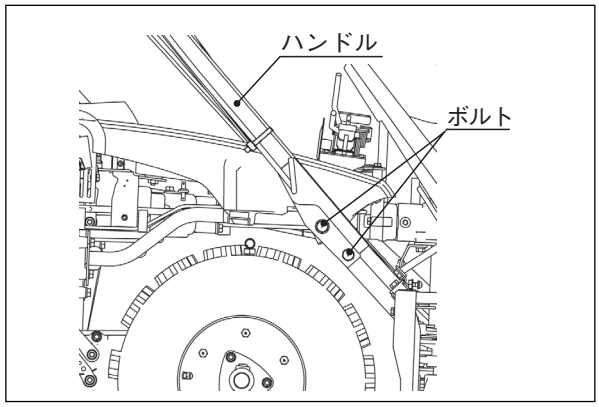
⚠ 警 告

ハンドル高さの調節は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、思わぬ傷害事故の原因になります。

ハンドル高さの調節は、左右のボルト（各２本）で調節できます。

補 足

- **調節後は、必ずボルトを締付けてください。**



7. 作業のしかた

7.1 刈取作業のしかた

⚠ 警 告

ほ場への出入りをするときに、高低差が大きい場合は、アユミ板を使用してください。
※　守らないと、転倒・転落事故等の原因になります。

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。
※　守らないと、転倒・転落事故等の原因になります。

傾斜地や、悪条件下の土地では、速度を落として作業してください。
※　守らないと、転倒事故の原因になります。

異常が発生したときは、直ちにエンジンを停止し、点検してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

ワラくず等を取り除くときは、必ずエンジンを停止してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

二人以上の共同作業では、補助者の安全を確認しながら、運転してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

作業に適した服装で作業してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。
※　守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。

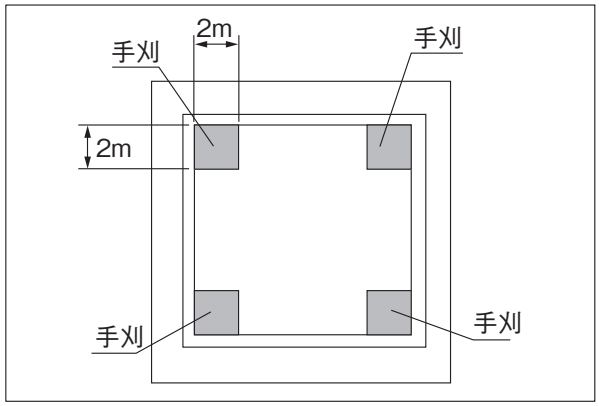
バインダを雑草やワラの上に駐停車したまま、空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしたりしないでください。
※　守らないと、排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し火災の原因になります。

刈取作業するときは、周囲の状況に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

エンジン稼働中は、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

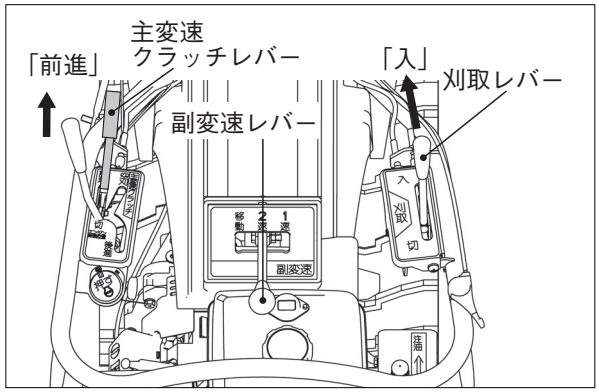
7.1.1 枕刈り

バインダがほ場の中で回れる程度の面積を手で刈取って、旋回しろを設けます。



7.1.2 刈取操作

■MB225、MB215



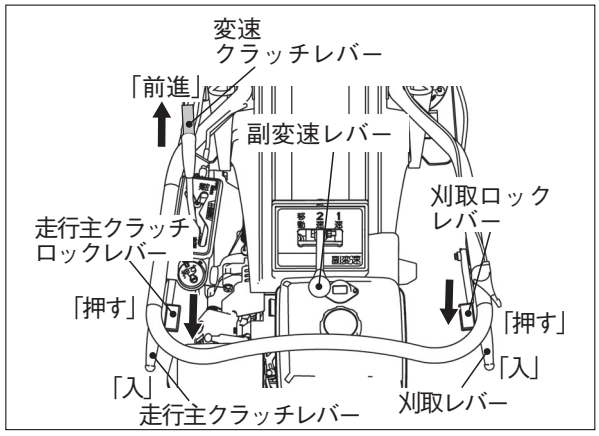
1 エンジンを始動します。

2 副変速レバーを所定位置（1速・2速）に合わせます。

3 刈取レバーを「入」位置にします。

4 主変速クラッチレバーを「前進」位置にします。

■MB115

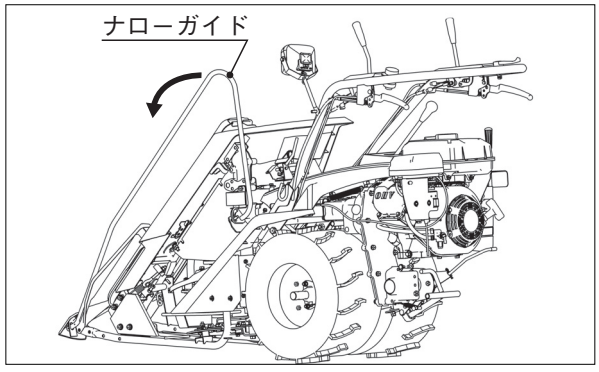


1 エンジンを始動します。

2 副変速レバーを所定位置（1速・2速）に合わせます。

3 刈取ロックレバーを押し、刈取レバーを「入」位置にします。

4 変速クラッチレバーを「前進」位置にして走行主クラッチロックレバーを押し、走行主クラッチレバーを「入」位置にします。



5 刈取作業する前にナローガイドを倒してください。

補 足

- **MB225、MB215は、主変速クラッチレバーを「切・エンジン始動」位置に、MB115は、走行主クラッチレバーを握り「切」位置にしないとエンジンが始動しません。**

7.1.3 自動刈取の操作（MB225-D、MB215-D）

1 刈取レバーを「自動」位置にします。

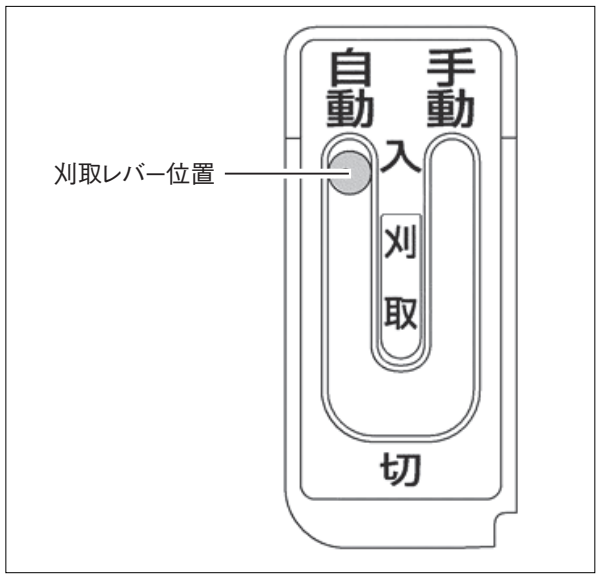
2 機械前方にあるセンサーによって稲を感知します。

3 刈取部が作動します。

4 稲がなくなれば自動的に刈取部が停止します。

補 足

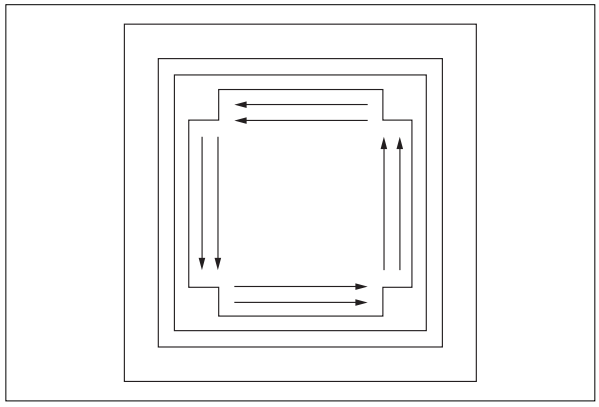
- **稲の稈が細く弱いときや倒伏している場合は、センサーが感知しないときがあります。**
  その場合は、刈取レバーを「手動」位置で使用してください。



7.1.4 刈取方法

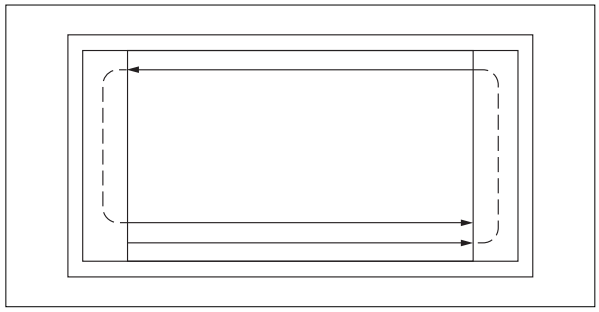
（1）左回り刈りが標準的な作業方法です。

左回り刈り



（2）往復刈りは長方形のほ場で能率が上がります。

往復刈り



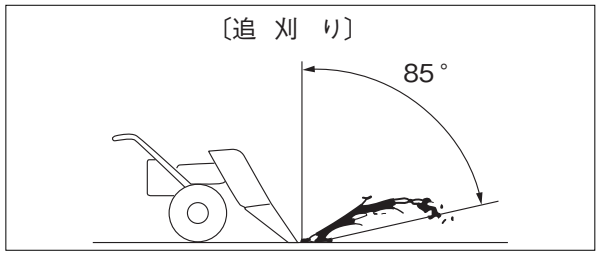
7.2 倒伏作物の刈取作業

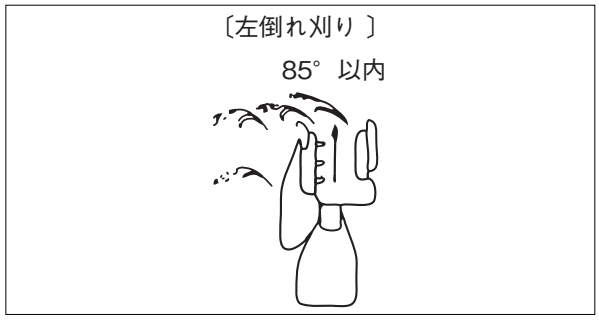
7.2.1 倒伏角度・作業速と刈取方向

倒伏した作物（85°以内）を刈取る時は､「1速」でアクセルレバーを調節しながら行い、追刈り、左倒れ刈りで進みます。

補 足

- **向い刈りや右倒れ刈りをすると詰まりが発生し、作業ができなくなる場合があります。**





7.2.2 補助ナローガイドの調節（MB225-D）

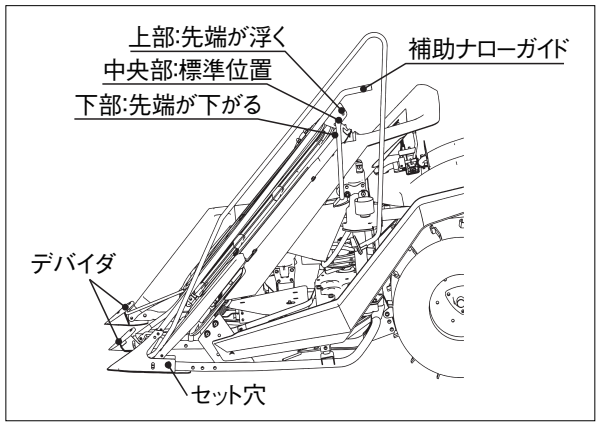
⚠ 警 告

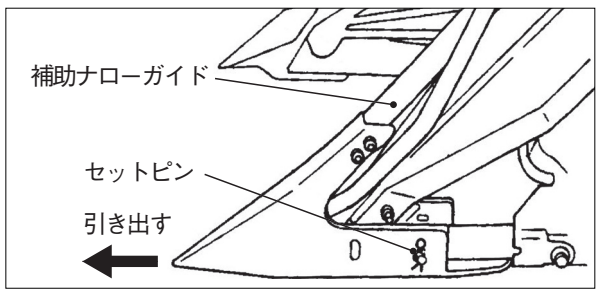
補助ナローガイドの調節は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

［刈り残しが発生する場合］
補助ナローガイドの先端を下方に調節します。

［倒伏およびからみの激しい作物の場合］

1. セットピンを外します。
2. 補助ナローガイドを前方に引き出し、セットピンを取り付けて調節します。
（２段階に調節できます）



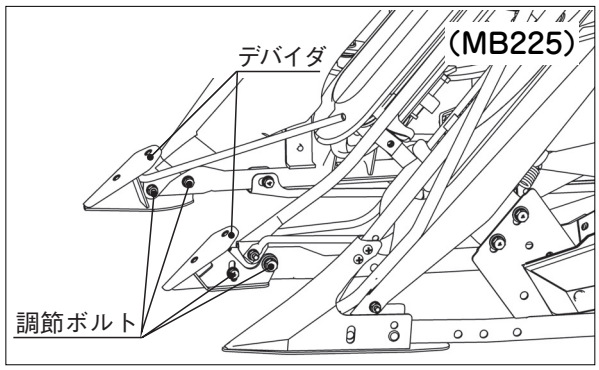


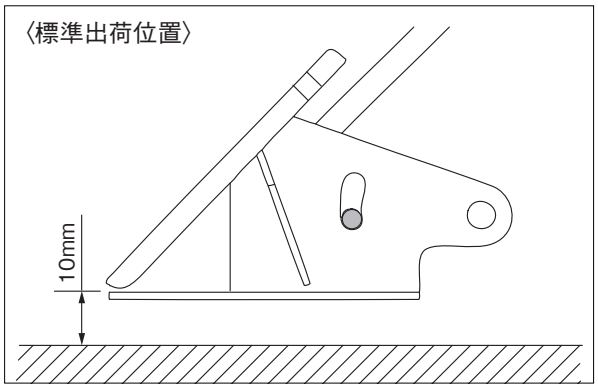
7.2.3 デバイダの調節

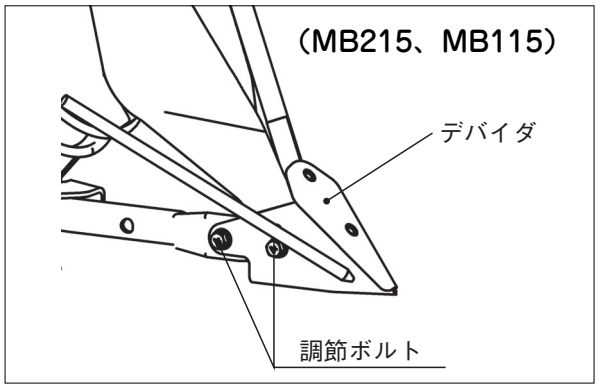
刈り残しが発生する場合は、デバイダの先端を調節ボルトをゆるめて下方に調節します。

補 足

- **調節後は、必ずゆるめたボルトを締めてください。**





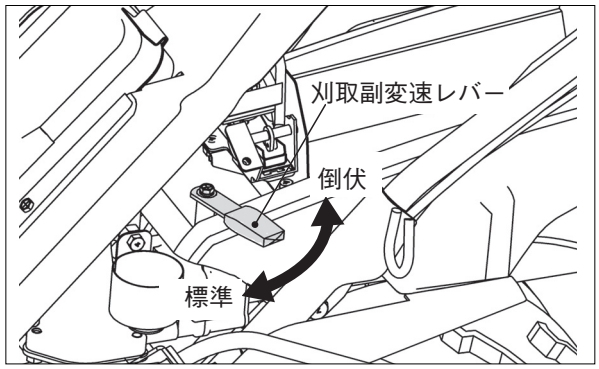


7.2.4 刈取副変速の切り換え(MB215-G、MB115-G)

倒伏した作物を刈取る時は、刈取副変速レバーを「倒伏」、副変速レバーを「1速」位置にして使用します。

補 足

- **倒伏していない作物を刈取るときは、「標準」位置で使用してください。**
  「倒伏」位置で使用すると、稈切れ、脱粒の原因となります。



7.3 湿田での刈取作業

⚠ 警 告

車輪上下調節を行う時は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

⚠ 注 意

湿田での刈取作業は、足もとが不安定なので、足もとに注意して作業してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

車輪の沈下が多くて、刈取部が浮き上る場合は、車輪の上下調節を行います。

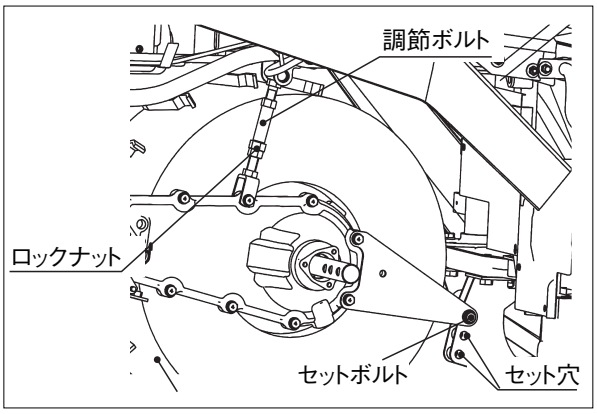
補 足

- **湿田での刈取作業でも、通常は出荷状態で使用してください。車輪は、前進で株をふみながら浮上しますので、むやみに車輪を調節しますと機体のバランスをくずし、作業が困難になる場合があります。**
- **湿田での刈取作業では、通常より枕刈りを多くとり、「後進」は使用せず、「前進」のみで刈取作業をするとスムーズに行えます。**

7.3.1 車輪上下の調節

■MB225

1. セットボルトを外します。
2. ロックナットをゆるめ、調節ボルトを適正なセット穴位置まで回します。
3. セットボルトを締め、ロックナットでロックします。



■MB215

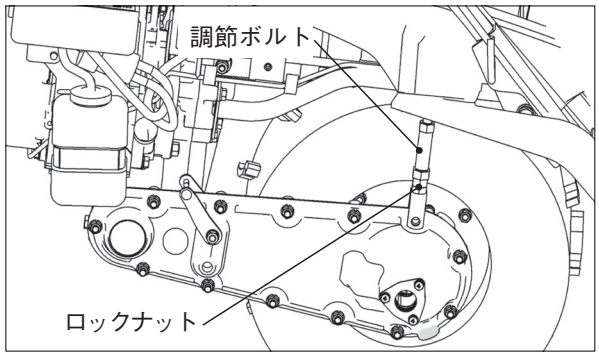
1 ロックナットをゆるめます。

2 調節ボルトを車輪が適正位置になるまで回します。

3 ロックナットでロックします。

補 足

- **標準位置は、調節ボルトを一番締め車輪をいっぱいに上げた位置です。**

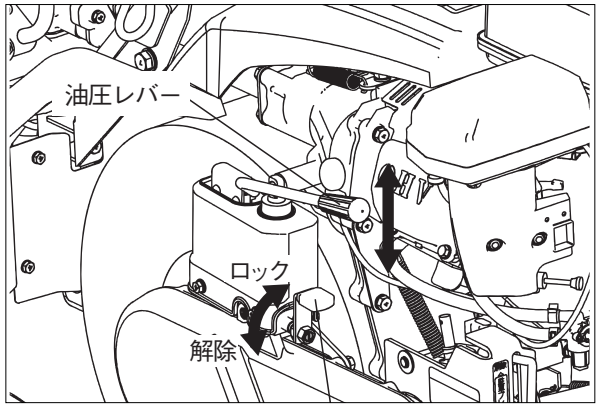


■MB115-J（油圧ジャッキ）

1 油圧レバーを上下に動かすと車輪は下がります。

2 解除レバーを左に回すと車輪は上がります。

3 使用した解除レバーは必ずロック位置にもどします。



■MB115（J型除く）

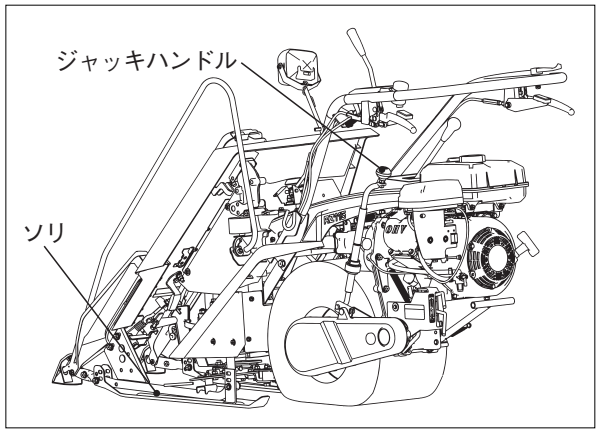
1 ジャッキハンドルを左に回すと車輪は下がります。

2 右へ回すと、車輪は上がります。

3 ジャッキハンドルを回し、地面とソリが水平に接した位置が標準です。

補 足

- **ジャッキハンドルを左に回し、車輪を下げすぎるとネジが外れ、ジャッキを破損する場合があります。**



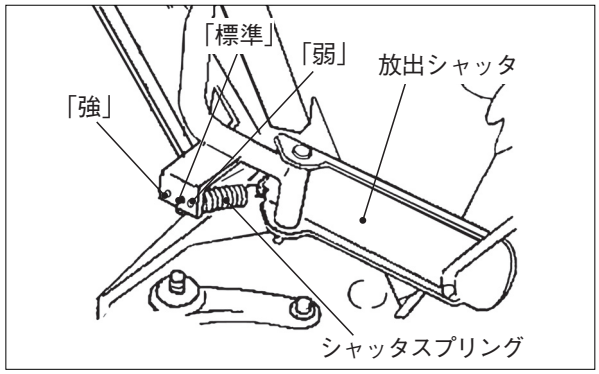
7.4 その他の刈取作業

⚠ 警 告

調節・調整は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

7.4.1 放出シャッタの調節（MB225）

放出シャッタの強さは3段階に調節できます。刈取りの状態を見て、次のような場合は、シャッタスプリングの位置を調節します。

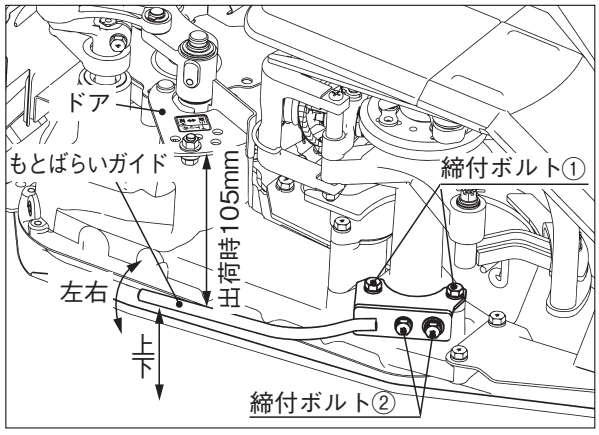


1 放出シャッタ先端より、稈がこぼれて、たれさがる場合は、「強」の位置にします。

2 放出時、放出シャッタの先端で稈をひっかける場合は、「弱」の位置にします。

7.4.2 もとばらいガイドの調節

稲束の放出姿勢が悪い場合は、もとばらいガイドを調節します。



1 締付ボルト①をゆるめると、もとばらいガイドが左右に調節できます。
稲束の放出距離を長くしたい場合は、右へ張り出します。
(出荷時は1番左側にセットしています。)

2 締付ボルト②をゆるめると、もとばらいガイドが上下に調節できます。
稲束の放出が停滞する場合は、下げて抵抗を小さくします。
(出荷時は、ドアから105mmの高さにセットしています。)

補 足

- **調節後は、必ず各締付ボルトを締付けてください。**

7.4.3 束の大きさの調節

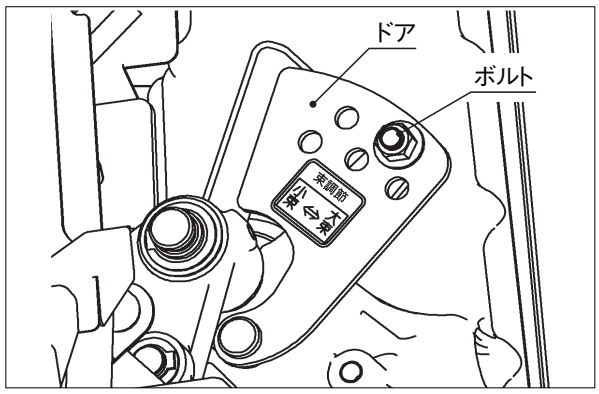
⚠ 警 告

束の大きさを変えるときは、必ずエンジンを停止してください。
※ 守らないと、思わぬ傷害事故の原因になります。

ドアのボルト穴位置を変えることにより束の大きさを調節することができます。(5段階)

補 足

- **調節後は、必ずボルトを締付けてください。**



7.4.4 麦の刈取作業

(1) 平まき、条植えが作付に適しています。
麦の刈取は、少し早めの時期に行います。
適期をすぎると、稈切れ、穂切れの原因になります。

(2) 長稈110cm以上で倒伏した麦、および60cm以下の極短稈は刈取できません。

(3) ぬれている麦の刈取はさけてください。
カバー類への付着や巻き付きが多くなります。

(4) 雑草が多い場合は、若干高刈りで作業します。

(5) ワラ量が多く結束が大束となる場合には、ドア位置を最小束にして作業します。

補 足

- **畝がある場合は、デバイダで引起しができなくなり、刈り残しが発生する場合があります。**

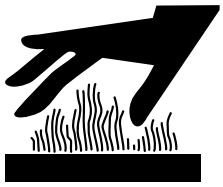
8. 点検整備

8.1 点検・整備に関する注意

⚠ 危険

エンジン停止後、エンジンが熱いうちは、燃料補給しないでください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になります。





⚠ 警告

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。
※ 守らないと、傷害事故や整備不良による事故の原因になります。

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

点検・整備するときは、マフラ等の高温部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いてください。
※ 守らないと、火災の原因になります。

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。
※ 守らないと、回転部への巻き込まれ等による傷害事故の原因になります。

エンジンを停止してすぐに、点検・整備しないでください。
エンジン等の高温部が十分冷めてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等による傷害事故の原因になります。

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。
※ 守らないと、故障や事故の原因になります。

⚠ 注意

点検・整備を行うときは、必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。
取扱説明書に従って定期点検を実施してください。
※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による事故の原因になります。

点検・整備をするときは、硬く平たんな広い場所で行ってください。
※ 守らないと、思わぬ事故の原因になります。

点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

8.1.1 点検、給油、調整一覧表

○：点検、補充、調整　●：交換　△：清掃、洗浄　★：お買いあげ先で交換、点検をお勧めします。

点検項目 ＼ 点検時間			作業時間							以降の点検整備	参照ページ
			毎日	シーズン初め	50時間	100時間★	150時間	200時間★	1回／2年★		
エンジン部	エンジンオイル	交換 点検	○	○	●	●	●	●		初回は25時間で交換	48
	エアクリーナ	清掃 点検	○	△	△	△	△	△		50時間ごとに清掃	50
	燃料フィルタ	清掃		△	△	△	△	△		50時間ごとに清掃	50
	点火プラグ	清掃 調整	○			△		△		100時間ごとに清掃	51
	リコイルスタータ	清掃	○		△	△	△	△		50時間ごとに清掃	−
	燃料ホースおよび接合部	点検 交換	○						★	ホースは２年ごとに交換	−
	コントロールパネル回動部 防錆潤滑剤塗布箇所	点検 交換		○							22
本体部	ギヤーボックスオイル	点検 交換	○						★	２年ごとに交換	48
	ホイルケースオイル	点検 交換	○						★	２年ごとに交換	49
	結束フレームオイル	点検 交換	○						★	２年ごとに交換	49
	タイヤ空気圧	点検	○	○							52
	搬送ベルト（MB225）	点検 交換	○	○					★		52
	各チェン	点検 交換	○	○					★		53
	各レバー・ワイヤ	点検 交換	○	○					★		56
	刈刃	点検 交換	○	○							55
	各注油箇所	点検	○	○							20
	ニードル・放出アーム グリース補給(グリスニップル部、他)	点検	○	○							−
	各レバー支点部・摺動部注油	点検	○	○							−

補 足

- **火山灰、ほこり等が多い場合には10～20アール使用毎に、各注油箇所、ニードル・放出アームに注油、グリース補給を行ってください。**

8.2 オイルの交換

⚠ 危 険

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因になります。

⚠ 警 告

オイル交換は、必ずエンジンを停止し、行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

注 意

抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、お買いあげ先へ依頼して処理してください。
※ 廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

8.2.1 給油一覧表

給油箇所		規定量(L)	オイルの種類	参照ページ
エンジンオイル	MB225	0.55	エンジンオイル10W-30（SF級以上）	48
	MB215・115	0.5		
ギヤーボックスオイル		1.0	ギヤーオイル(80#)	48
ホイルケースオイル		0.5		49
結束フレームオイル		1.0		49

8.2.2 エンジンオイル

1 エンジンを暖機運転後、エンジンを止め、ドレンプラグを外して容器にオイルを排出します。

2 ドレンプラグを締付け後、給油口からエンジンオイルをオイルゲージ上段まで入れます。「4.1.2 エンジンオイル」の項を参照し、作業を行います。(☞ 19ページ)

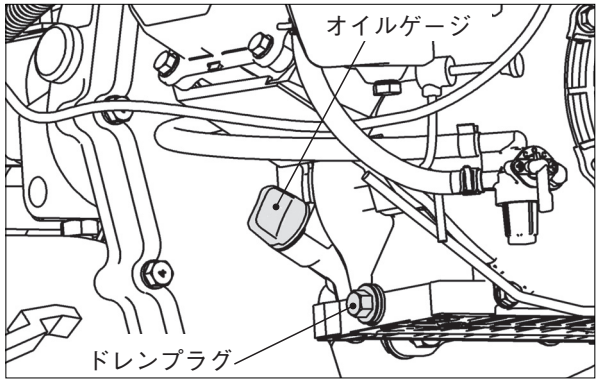
- エンジンオイルは下記量が入ります。
  （エンジンオイル10W-30）

〈MB225〉	〈MB215・MB115〉
0.55L	0.5L

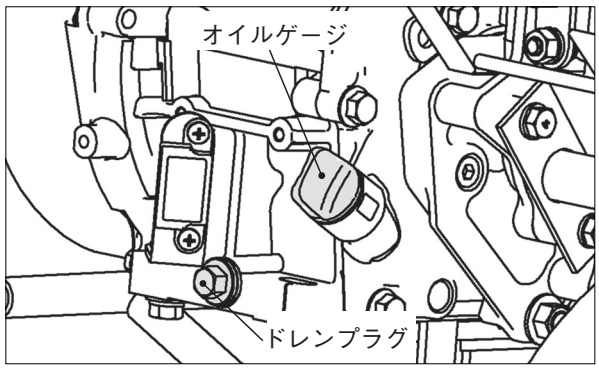
補 足

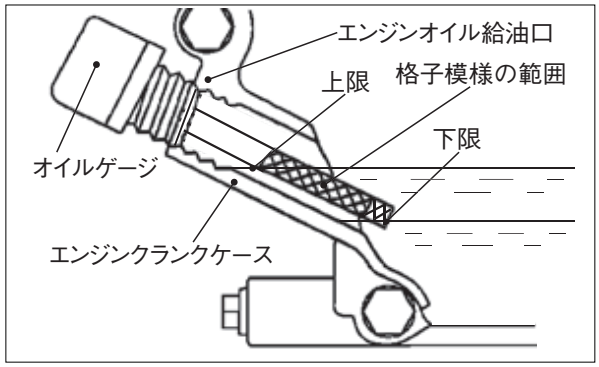
- **エンジンが水平になるように刈取部の下に枕木などをいれた状態で、給油・検油してください。**
- **給油量は交換の際の目安です。交換後は必ず検油してください。**
- **オイル給油口周りのゴミや汚れを取ってからオイルゲージを抜いてください。**
- **取り外したオイルゲージは、砂・ゴミ等が付かない場所に置いてください。**
- **給油口と検油口は兼用になっています。**
- **給油・検油をした後は、オイルゲージを確実に締付けてください。**

MB225、MB215



MB115





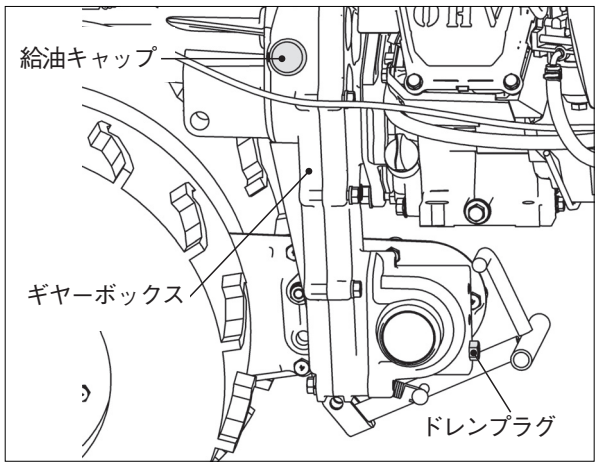
8.2.3 ギヤーボックス

1 ドレンプラグを取り外し容器にオイルを排出します。

2 排出後、ドレンプラグを締付け、給油キャップを取り外し、ギヤーオイル（80#）を入れます。

- ギヤーボックスには下記量が入ります。

1.0L



8.2.4 ホイルケース

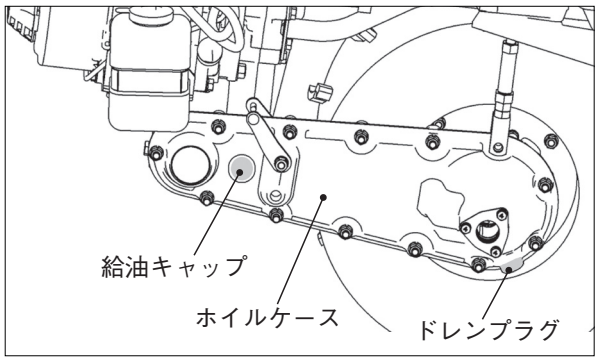
1 ドレンプラグを取り外し、容器にオイルを排出します。

2 排出後、給油口よりギヤーオイル（80#）を入れます。

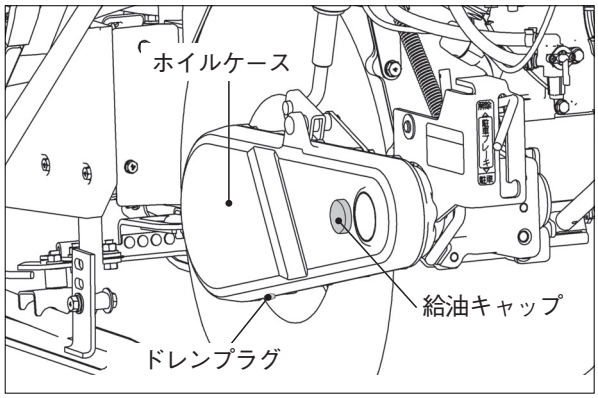
- ホイルケースには下記量が入ります。

0.5L

MB225、MB215



MB115



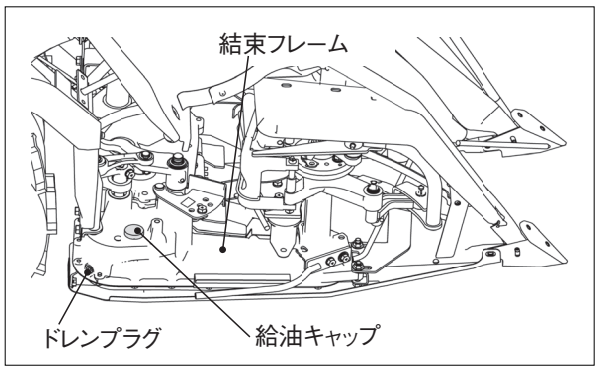
8.2.5 結束フレーム

1 ドレンプラグを取り外し、容器にオイルを排出します。

2 排出後、ドレンプラグを締付け、給油キャップを取り外し、ギヤーオイル（80#）を入れます。

- 結束フレームには下記量が入ります。

1.0L



8.3 エアクリーナの点検・清掃

⚠ 警 告

点検・清掃は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

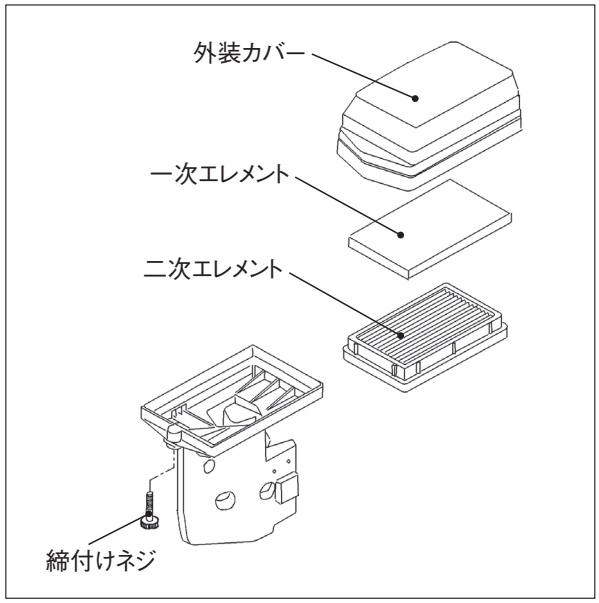
8.3.1 エアクリーナの清掃

1 エアクリーナは、毎運転前に点検・清掃を行ってください。

2 締付けネジをゆるめ外装カバーを外します。

3 一次，二次エレメントを外し軽く叩きます。エレメントの汚れがひどいときは，内側からエアーを吹いてほこりを落してください。

4 点検後は、外装カバーを確実に組付けてください。



補 足

- **ほこりが詰まると、エンジンの出力ダウンにつながります。**
- **エレメントの汚れがひどいときは交換してください。**

8.4 燃料の抜きかたおよび燃料フィルタの清掃

⚠ 危 険

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因になります。

⚠ 警 告

清掃は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

8.4.1 燃料タンク内の燃料の抜き方

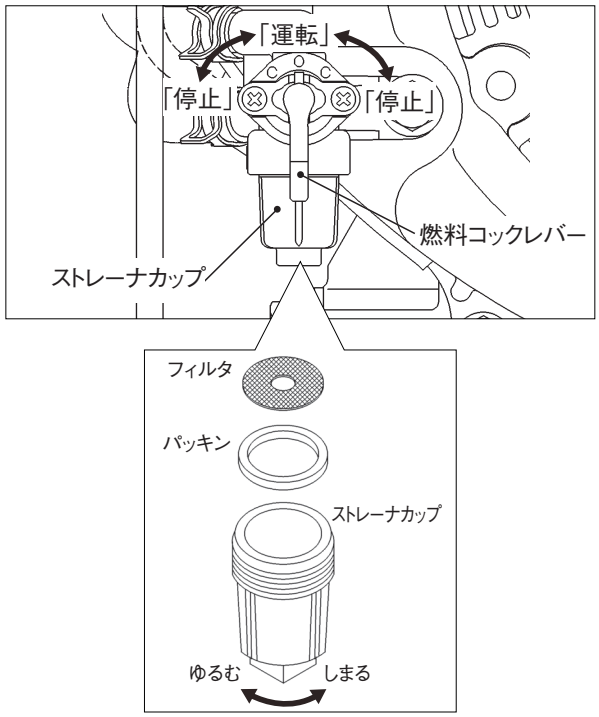
1 燃料コックレバーを横向き「C 停止」位置にし、燃料を止めます。

2 ストレーナカップを回して外します。ネジ部が固いときはストレーナカップ底面にある四角い部分に対辺10mmの工具を使用し回して外します。

3 ストレーナカップ内の沈殿物を除去すると共に、フィルタに付着しているゴミを取り除きます。

4 燃料タンクの燃料を抜く場合は、燃料コックの下に容器を置き、燃料コックレバーを縦向き「O 運転」の位置にし、燃料を抜いてください。

5 燃料を全部抜き終わったら、燃料コックレバーを横向き「C 停止」位置にし、ストレーナカップを元どおりに取り付けます。



8.4.2 キャブレター内の燃料の抜き方

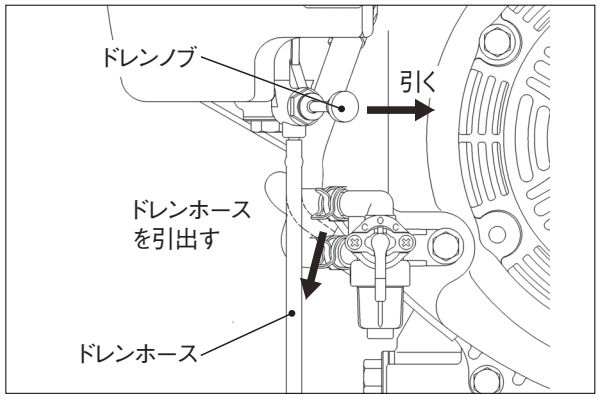
1 燃料コックレバーを横向き「C 停止」位置にし、燃料を止めます。

2 燃料ホースの間からドレンホースを引出しドレンホースの下に容器を置きます。

3 ドレンノブを引いて、キャブレター内の燃料を抜いてください。

4 燃料が出なくなったら、ドレンノブを放します。

5 ドレンホースは使用後、燃料ホースの間に戻します。



8.5 点火プラグの点検

⚠ 警 告

点火プラグの清掃は、必ずエンジンを停止し、エンジンが十分冷めてから行ってください。
※ 守らないと、やけどの原因になります。

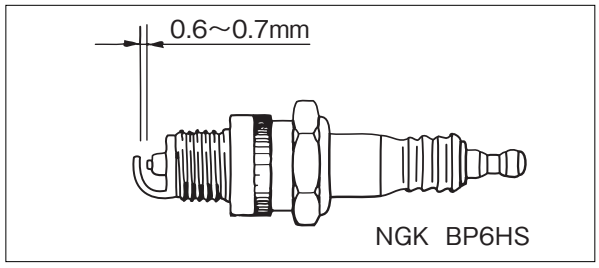
1 付属のプラグレンチで点火プラグを取り外します。

2 点火プラグに付着しているカーボンを取り除きます。

3 点火プラグの電極スキマは、0.6～0.7mmに調整します。

4 付属のボックスレンチで点火プラグを取り付けます。

5 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取り付けます。



補 足

- **使用点火プラグはNGK BP6HSです。**

8.6 タイヤ空気圧の点検

タイヤは右記空気圧が標準です。

補 足

- **ほ場での走行性をよくしていますので、標準空気圧以上に空気をいれないでください。**

MB225(W型を除く)	20kPa[0.2kgf/cm^2]
MB225-W型	30kPa[0.3kgf/cm^2]
MB215	20kPa[0.2kgf/cm^2]
MB115	0kPa[0kgf/cm^2]

8.7 搬送ベルトの調整（MB225）

⚠ 警 告

搬送ベルトの調整を行うときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

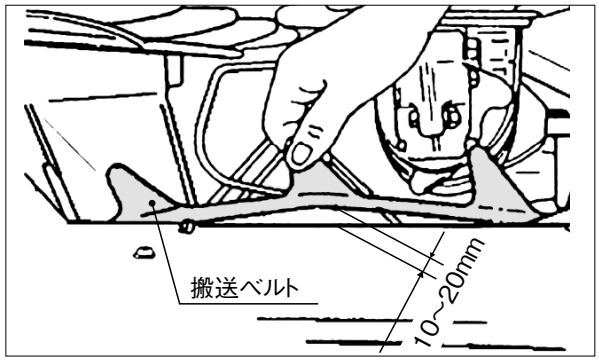
1 調節ボルトをゆるめます。

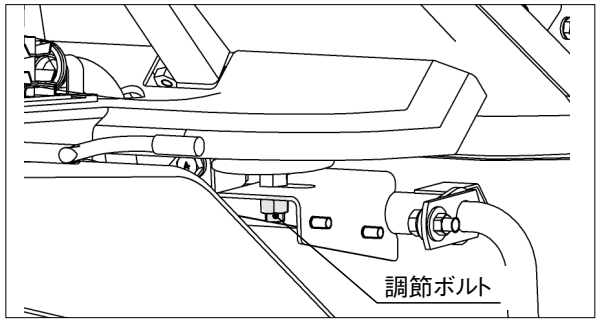
2 搬送ベルトの中央を引っ張って、10～20mmたわむ程度に調整します。

3 調節ボルトを締付けます。

補 足

- **搬送ベルトが損傷した場合は、性能に大きく影響しますので、早めに取りかえてください。**





8.8 各チェンの調整

⚠ 警 告

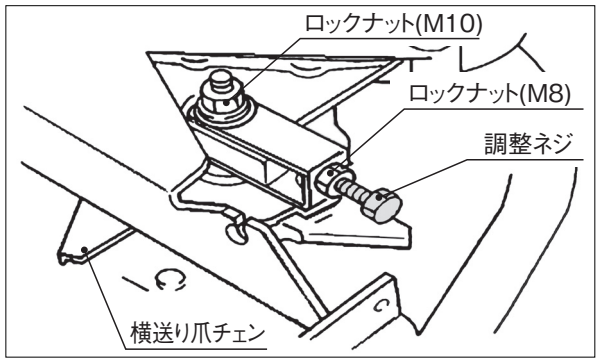
各チェンの調整を行うときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

8.8.1 横送り爪チェン（MB225）

1 ロックナット（M10）とロックナット（M8）をゆるめます。

2 調整ネジを回し、横送り爪チェンにゆるみが無くなるように調整します。

3 調整後ロックナット（M10）とロックナット（M8）をロックします。



8.8.2 引起しチェン

引起しカバーは下記手順で脱着を行います。

1 レバーを上方にまわして、ピンから外します。

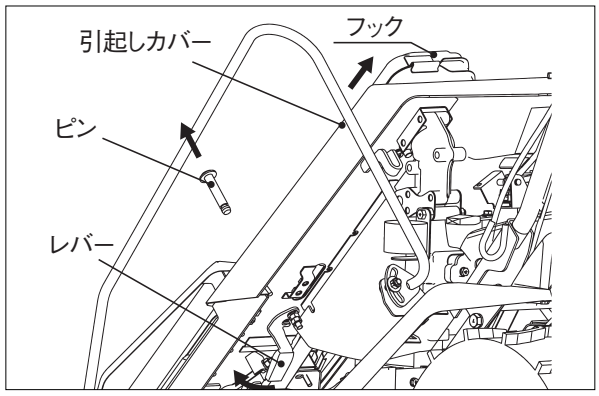
2 引起しカバー側よりピンを引き抜きます。

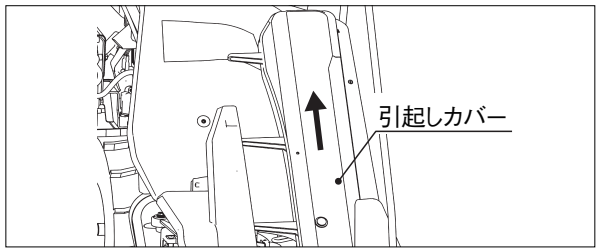
3 引起しカバーを上へ押し上げるとフックから外れて引起しカバーが取り外せます。

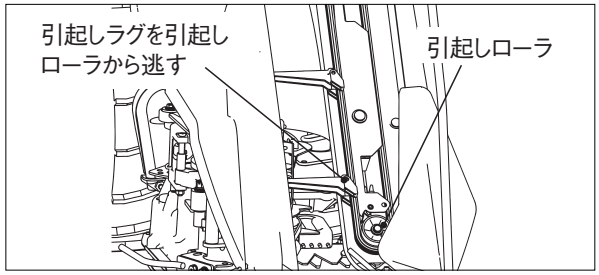
4 引起しカバーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

補 足

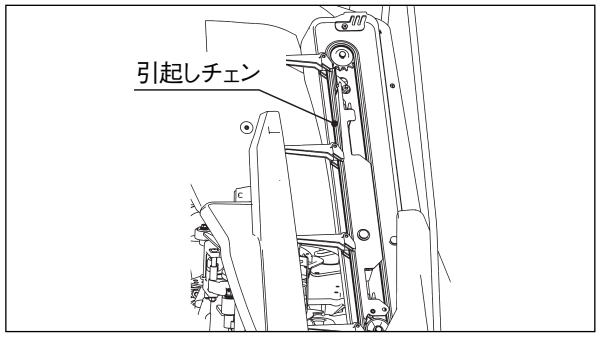
- **引起しカバーの脱着は、引起し爪を引起しローラから逃がして行ってください。**
- **引起しカバーを取り付けるときは、フックを引起しケースの上部の折り曲げ部に必ず差し込んでください。**
- **ピンは確実にレバーで固定してください。**







引起しチェンは、自動テンション方式を採用していますが、長時間使用しますと、引起しチェンがゆるみ、引起し作用が悪くなりますので点検調整してください。



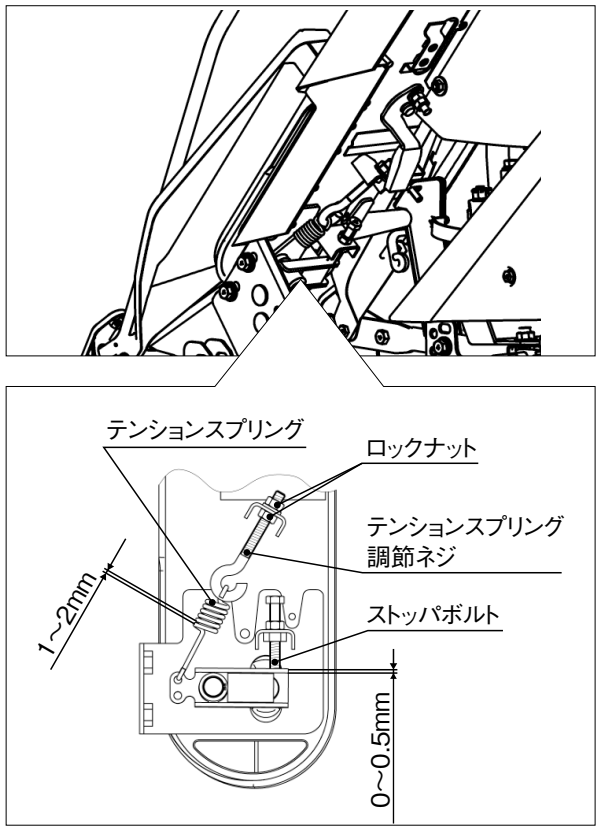
■調整のしかた

1 ロックナットをゆるめます。

2 テンションスプリングのスキマを1～2mmに調整します。

3 ストッパボルトのスキマを0～0.5mmに調整します。

4 ロックナットを確実に締付けます。



8.9 刈刃の調整

⚠ 警 告

刈刃刈高さの調節・刈刃のスキマ調整を行うときは、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

刃部に手をかけないでください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

8.9.1 刈高さの調節

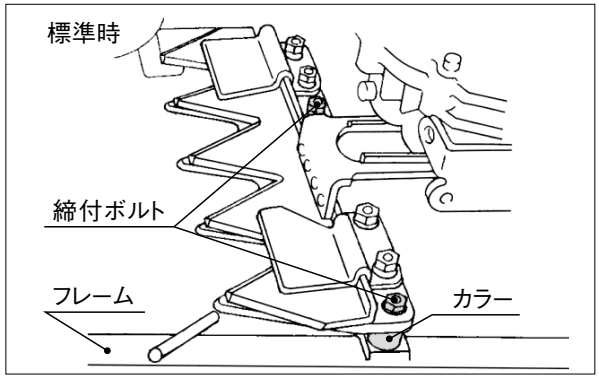
標準高さで、刈株が高すぎる場合は、低刈用に調節してください。(約18mm刈高さが下がります。)

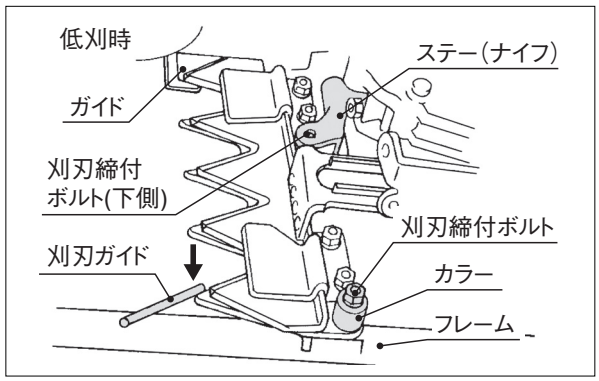
1 刈刃をフレームに締付けている締付ボルト(2本)を取り外します。

2 右側は、ステー（ナイフ）の下方に、左側はフレームに直接締付けます。

3 刈刃ガイドの先端が刈刃の下になるように、約15mm押し曲げます。

4 カラーを刈刃上面に置き刈刃締付ボルトで刈刃と締付けします。



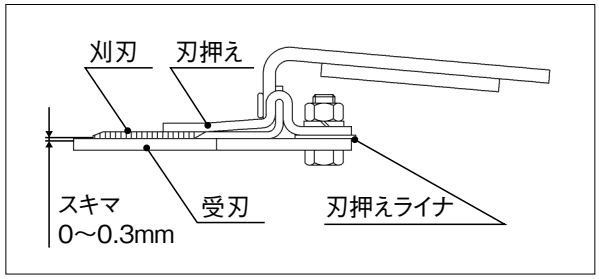


8.9.2 刈刃のスキマ調整

刈刃と受刃のスキマが０～0.3mmになるよう、刃押えライナ（シム）の増減により調整してください。

補 足

- **刈刃と受刃のスキマ調整が出来てないと作物がきれいに刈取れません。**



8.10 各レバー・ワイヤの調整

⚠ 警 告

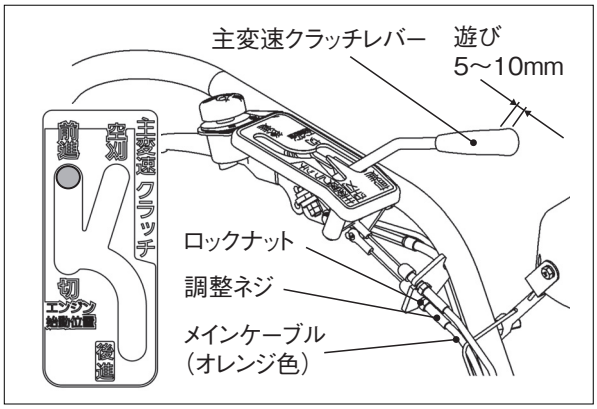
各部の調整を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

8.10.1 メインクラッチの調整

メインケーブル（オレンジ色）は、次の手順で点検します。

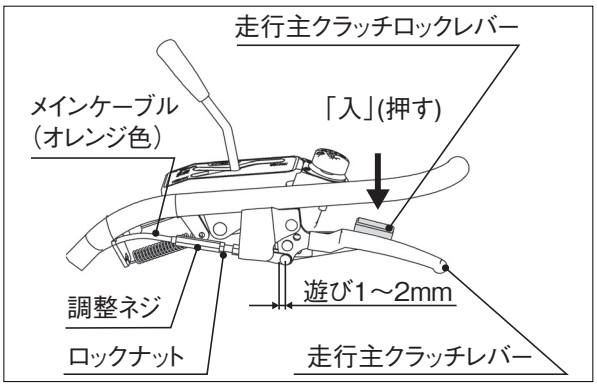
■MB225、MB215

●主変速クラッチレバーを「前進」位置にして調整します。



1. 主変速クラッチレバーを「前進」位置にしてクラッチをつないだ後、主変速クラッチレバーの先端で、5～10mmの遊びがあるか点検します。
2. 5～10mm以外の遊びの場合は、メインケーブル（オレンジ色）の調整ネジのロックナットをゆるめ調節ネジで調整します。
3. 調整後は、必ずロックナットをロックします。

■MB115



1. 走行主クラッチレバーを押し「入」位置にして、クラッチをつないだ後、1～2mmの遊びがあるか点検します。
2. 遊びが１～２mm以外の場合は、メインケーブル（オレンジ色）の調整ネジのロックナットをゆるめ調節ネジで調整します。
3. 調整後は、必ずロックナットをロックしてください。

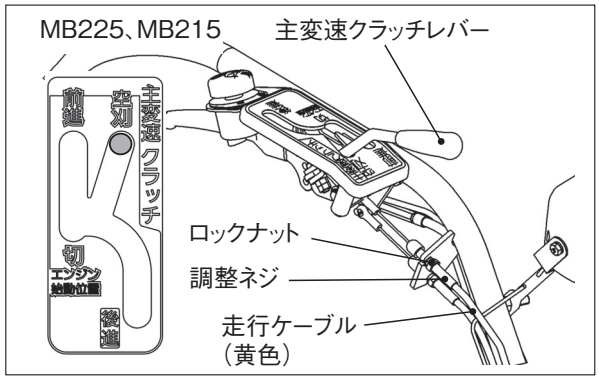
8.10.2 走行クラッチの調整

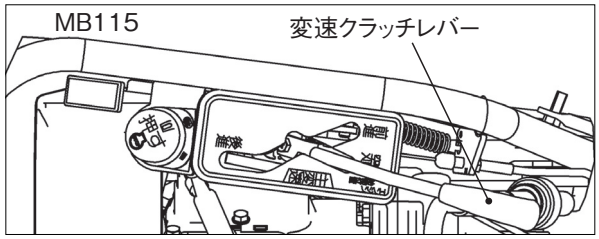
走行ケーブル(黄色）は、次の手順で点検します。

- 主変速・変速クラッチレバーを「空刈」位置にして調整します。

1 MB225、MB215は、
主変速クラッチレバーを「空刈」位置にします。

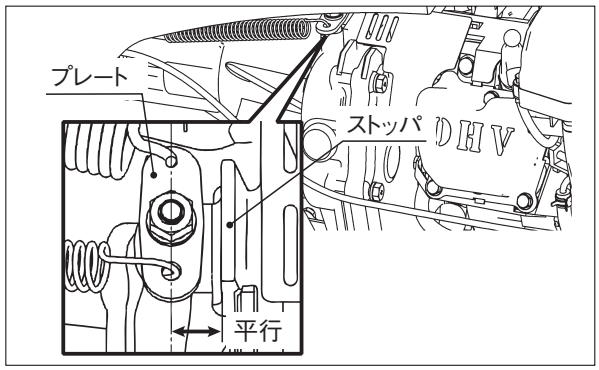
MB115は、
変速クラッチレバーを「空刈」位置にします。





2 プレートとギヤーボックスのストッパが平行であるか点検します。

3 平行でない場合は、走行ケーブル（黄色）の調整ネジのロックナットをゆるめ調整ネジで調整します。



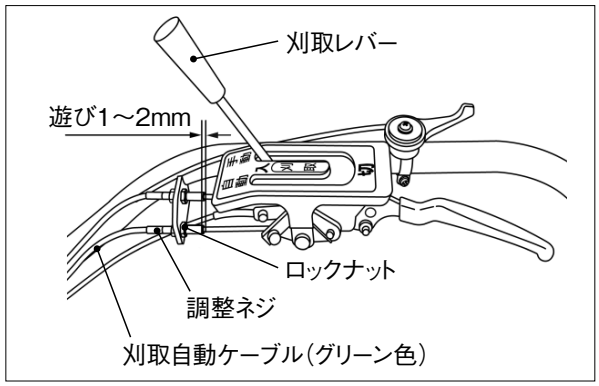
4 調整後は、必ずロックナットをロックしてください。

8.10.3 刈取クラッチの調整

刈取ケーブルは、次の手順で点検調整してください。

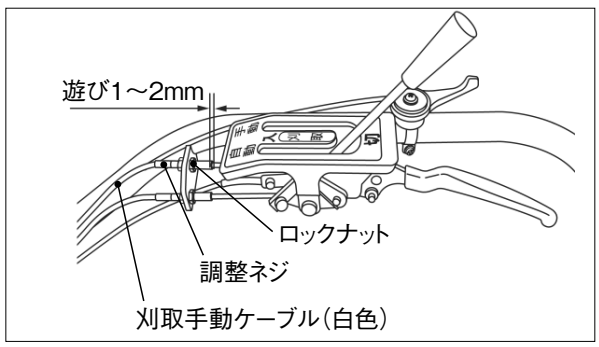
■MB225、MB215

1 刈取レバーを「入」(D型は「手動」）位置にしてクラッチをつないだとき、刈取自動ケーブル(グリーン色）ワイヤの遊びが1～2mmか点検します。



2 D型は刈取レバーを「切」位置にして刈取手動ケーブル(白色)ワイヤの遊びが1～2mmか点検します。

3 それぞれのワイヤの遊びが1～2mm以外の場合は、調整ネジのロックナットをゆるめて調整します。



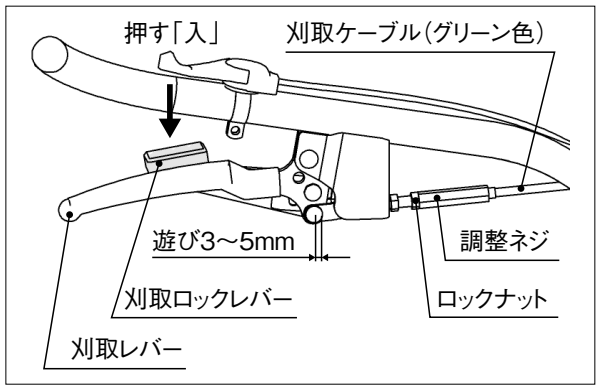
4 調整後は、必ずロックナットをロックしてください。

■MB115

1 刈取レバーを「入」位置にして、クラッチをつないだ後、刈取ケーブル(グリーン色)ワイヤの遊びが3～5mmか点検します。

2 3～5mm以外の遊びの場合は、調整ネジのロックナットをゆるめ調整ネジで調整します。

3 調整後は、必ずロックナットをロックしてください。



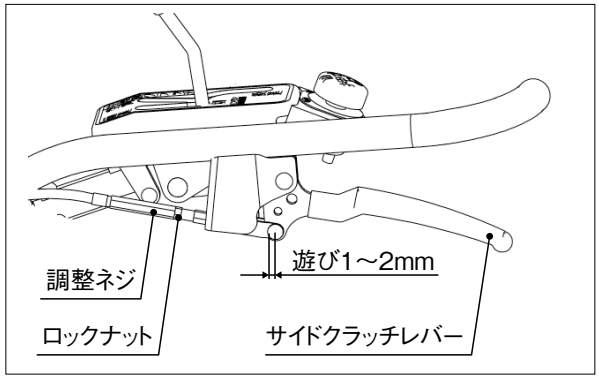
8.10.4 サイドクラッチの調整（MB225、MB215）

サイドクラッチケーブルは、次の手順で点検調整してください。

1 サイドクラッチレバーの遊びが１～２mmであるか点検します。

2 遊びが１～２mm以外の場合は、調整ネジのロックナットをゆるめ調整ネジで調整します。

3 調整後は必ず、ロックナットをロックしてください。



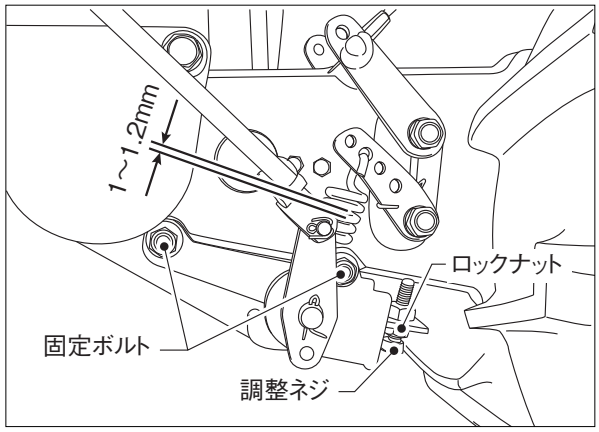
8.10.5 駐車ブレーキの調整（MB225、MB215）

駐車ブレーキのスプリングは、次の手順で点検調整してください。

1 駐車ブレーキレバーを駐車位置にしたときにスプリングの隙間が1～1.2mmであるか点検します。

2 スプリングの隙間が1～1.2mm以外の場合は、固定ボルトをゆるめ、調整ネジのロックナットをゆるめ調整ネジで調整します。

3 調整後は必ず、ロックナットをロックして固定ボルトを締付けてください。



9. 格納時の手入れ

9.1 日常の格納

⚠ 警 告

点検・整備・清掃をするときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

作業が終了して、シートカバー等をバインダにかけるときは、高温部が十分冷めてから行ってください。
※　守らないと、火災の原因になります。

⚠ 注 意

バインダの格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

注 意

洗車をするときは、高圧洗浄機等でエンジンや電装品に直接、圧力水をかけないでください。
※　守らないと、エンジンの始動・停止の不良の原因になります。

1 作業後、その日の内に水洗いし、回転部等に巻き付いたワラゴミ等をきれいに取り除きます。

2 エアクリーナの吸気口から水が入らないように注意して水洗いをします。
また、水洗い後は良く水分をふき取ります。

3 エアクリーナのエレメントに付いた土やほこりを落とします。

4 回転部、摺動部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ります。
「4. 1　給油、注油箇所の点検と補給」の項を参照し、作業を行います。(☞18ページ)

9.2 長期格納

⚠ 危 険

燃料抜取時は火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因になります。

1か月以上使用しない場合は、燃料を完全に抜き取ってください。
※　守らないと、燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因になります。

9. 格納時の手入れ

⚠ 警 告

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、高温部が十分冷めてから行ってください。
※　守らないと、火災の原因になります。

⚠ 注 意

バインダの格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

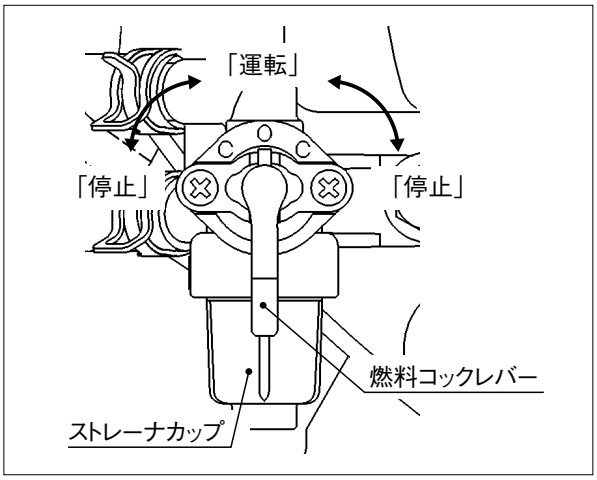
⚠ 注 意

抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、お買いあげ先へ依頼して処理してください。
※　廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染による健康被害の原因になります。

1 燃料をガソリン専用容器に抜き取ります。「8.4　燃料の抜きかたおよび燃料フィルタの清掃」の項を参照し、作業を行います。
（ ☞ 50ページ）

補 足

- **ガソリンは、1か月以上放置しておくと変質し、次期使用時にエンジントラブルの原因になりますので、完全に抜き取ってください。**



2 エンジンは、リコイルスタータノブを引いて回転させ、圧縮を感じる位置でとめます。

3 格納場所は、直射日光の当たらない風通しが良く、周囲にワラ等燃えやすいものがなく、雨のかからない、乾燥した場所を選び、シートをかけます。

9.3 格納用スタンドの使い方

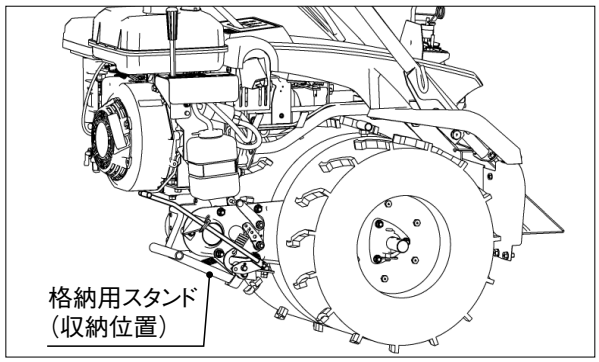
⚠ 警 告

格納用スタンド使用時は、必ずエンジンを停止してください。
※ 守らないと、思わぬ事故の原因になります。

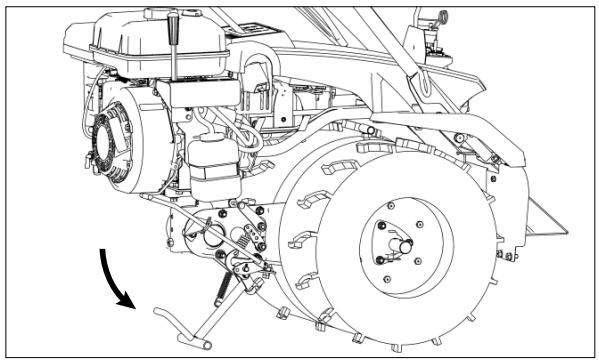
格納用スタンドの使用場所は、平たんで地面のかたい場所を選んでください。
※ 守らないと、思わぬ事故の原因になります。

トラック等で運搬するときは格納用スタンドを使用しないでください。
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因になります。

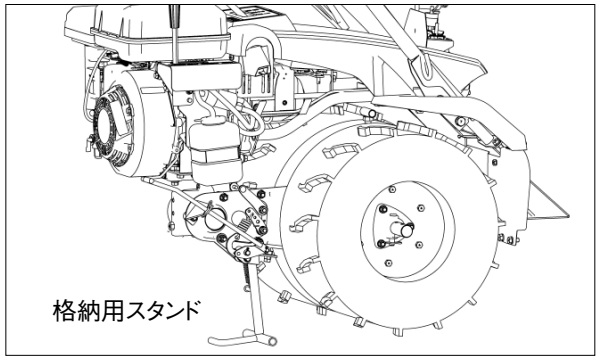
1 格納用スタンドを収納位置から地面上に下ろします。



2 格納用スタンドの接地面を足で押えながらハンドルを引き上げスタンドを立てます。



3 バインダを運転するときは、逆の手順で格納用スタンドを収納します。



補 足

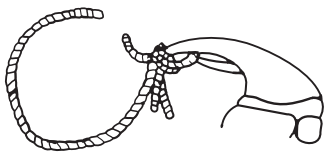
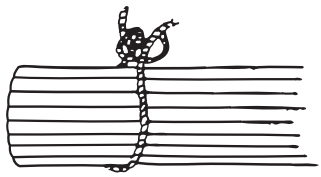
- **バインダの車輪高さを調整する場合は固定台を別に使用してください。**

10. 不調時の診断と処置

10.1 結束ミスの点検

⚠ 警 告

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因になります。

不調の内容	原因	処置方法
〈結束ミス〉 切れたひもがノッタビルくちばし部に巻きついている。 ※必ず巻きついたひもを取り除きノッタビルとひも案内のスキマを0.3～0.8mmに寄せてください。 （☞ 63ページ） 	劣化ひも、湿ったひもを使用していませんか。	ひもブレーキの荷重をピンの位置で調整してみてください。 直らないときは純正ひもに交換してください。（☞ 64ページ）
	ニードルとノッタベースのスキマが広がっていませんか。	ニードルとノッタベースのスキマを0.5～1.0mmに寄せてください。（☞ 63ページ）
	ひもガイドとニードルの高さがズレていませんか。	ひもガイドを通したひもがニードルの中心に向くように調整してください。（☞ 63ページ）
	ノッタビルに傷などがありひもの滑りが悪くなっていませんか。	ノッタビルをオイルを付けた布で磨いてみてください。直らないときはお買いあげ先に問い合わせてください。（☞ 63ページ）
	摩耗などでパッカにガタが発生していませんか。	わら屑などを取り除きパッカに注油してください。直らないときはお買いあげ先に問い合わせてください。（☞ 20ページ）
〈結束ミス〉 結び目が無く、ひもがほどけて放出される。 	ホルダにひも屑がたまってひもを挟持できなくなっていませんか。	ホルダのひも屑を取り除きホルダ調節ナットを0.5～1回転調整してみてください。（☞ 64ページ）
	摩耗などでノッタビルにガタが発生していませんか。	ひも屑などを取り除きノッタベースに注油してください。直らないときはお買いあげ先に問い合わせてください。（☞ 63ページ）
	摩耗などでノッタビルのひも挟持力が弱くなっていませんか。	ビルスプリングの強さをスナップピンの位置で調整してみてください。直らないときはお買いあげ先に問い合わせてください。 （☞ 63ページ）

⚠ 警 告

結束ミスの点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。

結束ミスが出たときは、次の要領にて点検してください。

（1） 結束ひもの通しかたは間違っていませんか。

（2） ひもの種類に対し、ひもブレーキのアジャスタとピンの位置は適正ですか。

（3） ノッタビルやホルダにワラ屑やひも屑がないですか。

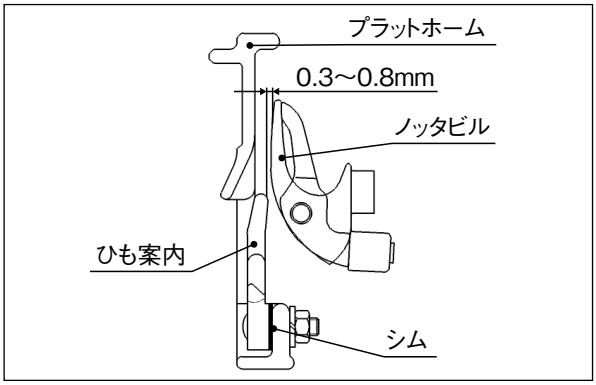
（4） ノッタビルとひも案内のスキマが適正ですか。
（ノッタビルとひも案内のスキマが0.3～0.8mmが適正です。）

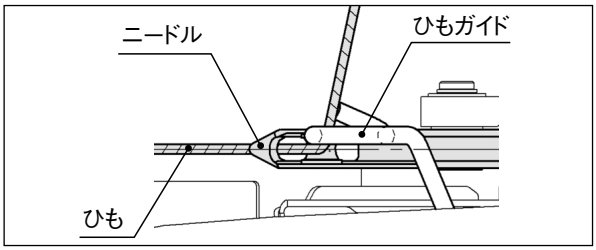
（5） ひもガイドとニードルとの関係位置は適正ですか。
（ひもガイドを通したひもが、ニードルの中心を通るのが適正です。）

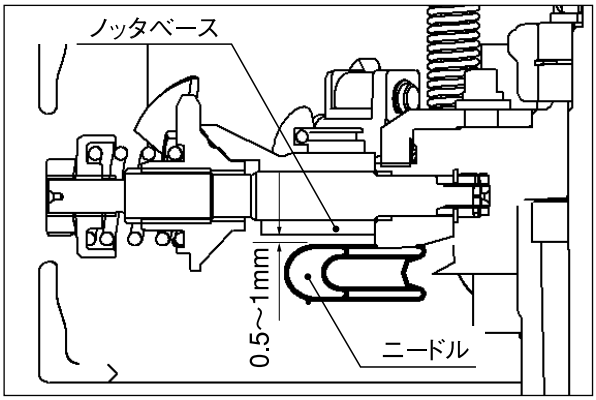
（6） ニードルとノッタベースのスキマは適正ですか。
（結束時にニードルとノッタベースのスキマが0.5～1mmが適正です。）

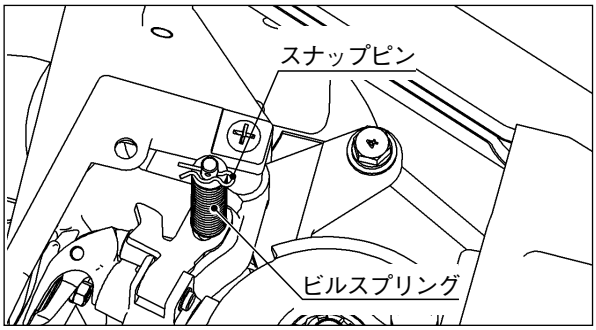
（7） ノッタビルに傷などがありひもの滑りが悪くなっていませんか。（表面がザラザラしている時はオイルをつけた布で磨いてください。）

（8） ノッタビルの挟持力が強すぎたり、弱すぎたりすると結束ミスの原因となります。
結び目がほどけて結束ミスになる場合はスナップピンの位置を調整してください。
（標準は上から2番目の穴です。）





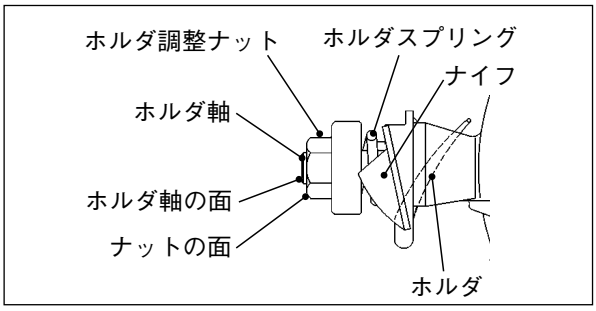


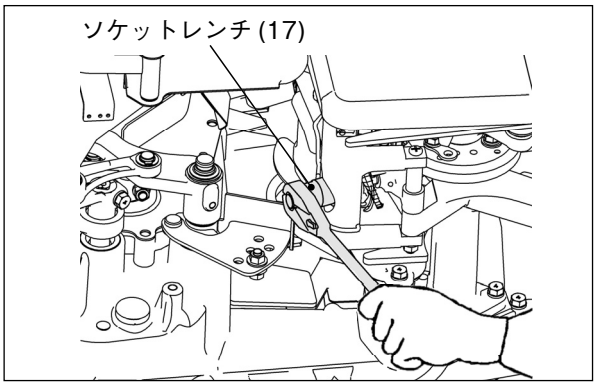


(9) ホルダ荷重は、ホルダ調整ナットの面をホルダ軸に合わせた状態から１回転締込んだ状態で出荷しています。
ホルダからひも抜け、結束ミスが起こる場合は、次の要領で調整してください。

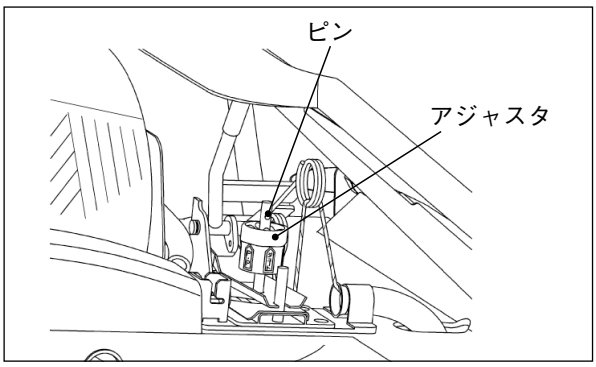
ひもの種類	調整範囲
ジュート	ナット面を軸の面に合わせて０～１回転締込んだ範囲
P・P	ナット面を軸の面に合わせて１～２回転締込んだ範囲

ホルダ荷重の調整は、ソケットレンチ(17)を使用しホルダ調整ナットを回して行います。



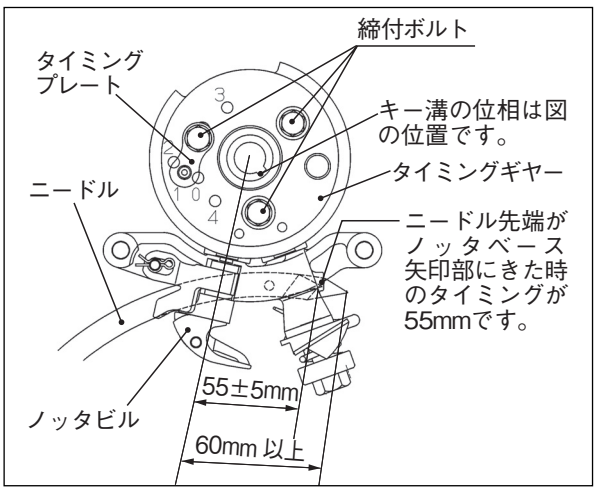


(10) ひもの状態（劣化、水分、太さのバラツキ）により結束ミスが起こる場合はひもブレーキの荷重をピンの位置で調整してください。
（アジャスタを押し下げ、ピンを上の穴に差し替えるとひもブレーキが弱くなります。）
ひもブレーキを弱くすると束固さが弱くなりますので効果の無いときは下の穴に戻してひも交換してください。



(11) 結束ミスが起こる場合は、ノッタビルとニードル先端の寸法が適正ですか。
ノッタビルが回り始めた時、ニードル先端がノッタビルより、55±5mmの位置にある時がタイミングの適正位置です。

(12) タイミングの調整は、ニードル先端が60mm以上になっている場合、タイミングギヤーの締付ボルトをゆるめタイミングプレートを数字が大きい位置にセットして、締付ボルトを締付けてください。



補 足

- **タイミングプレートの出荷時組付け位置は「１」です。(図の位置)**

11. 付表

11.1 推奨潤滑油一覧表

区　分		商 品 名	SAE	API	納車時充填油
ガソリンエンジン用 エンジンオイル		ガソリンエンジン用 エンジンオイル	10W-30	SF級以上	○
ギヤーオイル	ギヤーボックス部 ホイルケース部 結束フレーム部	ギヤーオイル	80		○
一般グリース		ユニルーブNo.2（協同油脂） リチューム系一般グリース			○
燃料		自動車用無鉛ガソリン			×
防錆潤滑剤	コントロールパネル部	防錆潤滑剤　TB1804（スリーボンド）			○

■純正オイル

区　分	商　品　名	SAE	API
エンジンオイル	スーパーマルチGDオイル	10W-30	SL
	スーパーマルチSTOUオイル2	10W-30	SF/GL-4
ギヤーオイル	スーパーマルチGBオイル	80W	GL-4
	スーパーマルチSTOUオイル2	10W-30	SF/GL-4

11.2 主要諸元

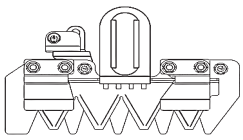
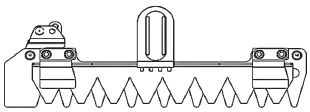
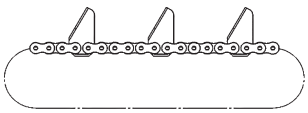
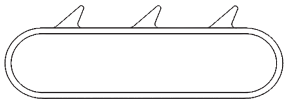
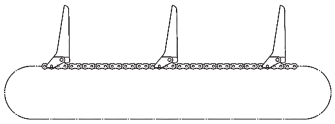
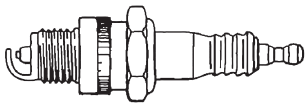
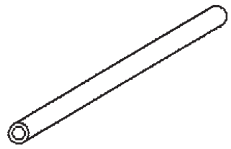
型式名				MB225		
区分				MB225	MB225-DH	MB225-DHW
機体寸法	全長（mm）			1,795		
	全幅（mm）			770		
	全高（mm）			1,035		
重量（kg）				151	152	
エンジン	型式名			GB181LN		
	種類			空冷４サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン		
	総排気量（L）			0.181		
	出力/回転数（kW {PS} /rpm）			3.7{5.0}/1,650 （最大4.6{6.3}）		
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量（L）			3.6		
	点火方式			無接点マグネツト点火		
	始動方式			リコイルスタータ式		
走行部	変速段数（段）			前進3　後進3		
	タイヤ	種類		広幅低圧	ハイラグ	
		サイズ		19X11.0-8	左 18X9.0-8 右 18X12.0-8	
	走行速度(m/s)	1速	前進	0.62		
			後進	0.29		
		2速	前進	0.92		
			後進	0.43		
		移動速	前進	1.35		
			後進	0.63		
刈取部	刈幅（mm）			570		
	刈取条数（条）			2		
	刃幅（mm）			400		
	刈高さ範囲（mm）			（高）45～55 （低）35～45		
	適応作物			稲･麦		
	適応作物範囲（mm）			600～1,200		
	倒伏適応性（度）			追刈り　85°･向刈り　75°以内		
結束部	結束方式			ノッタビル方式		
	適応ひもの種類			P.P（1440テックス） ジュート(550テックス×6)		
	束の大きさ調整段数（段）			5（大～小）		
作業能率（分/10a）				36～53		
クラッチ方式				爪クラッチ		
安全性検査合格番号				申請予定		

型式名				MB215				
区分				MB215	MB215-G	MB215-D	MB215-DW	MB215-DG
機体寸法	全長（mm）			1,600				
	全幅（mm）			575				
	全高（mm）			995				
重量（kg）				110	111			112
エンジン	型式名			GB131LN				
	種類			空冷４サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン				
	総排気量（L）			0.126				
	出力/回転数（kW｛PS｝/rpm）			2.3{3.1}/1,650 （最大3.0{4.2}）				
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン				
	燃料タンク容量（L）			3.6				
	点火方式			無接点マグネツト点火				
	始動方式			リコイルスタータ式				
走行部	変速段数（段）			前進3　後進3				
	タイヤ	種類		広幅低圧			ハイラグ	広幅低圧
		サイズ		18X8.0-8			18X7.0-8	18X8.0-8
	走行速度(m/s)	1速	前進	0.64				
			後進	0.30				
		2速	前進	0.96				
			後進	0.45				
		移動速	前進	1.41				
			後進	0.66				
刈取部	刈幅（mm）			300				
	刈取条数（条）			1				
	刃幅（mm）			200				
	刈高さ範囲（mm）			（高）40～50　（低）30～40				
	適応作物			稲･麦				
	適応作物範囲（mm）			600～1,200				
	倒伏適応性（度）			追刈り　85°･向刈り　75°以内				
結束部	結束方式			ノッタビル方式				
	適応ひもの種類			P.P（1440テックス） ジュート(550テックス×6)				
	束の大きさ調整段数（段）			5（大～小）				
作業能率（分/10a）				68～103				
クラッチ方式				爪クラッチ				
安全性検査合格番号				申請予定				

11. 付表

型式名			MB115		
区分			MB115	MB115-G	MB115-J
機体寸法	全長 (mm)		1,625		
	全幅 (mm)		595		
	全高 (mm)		935		
重量 (kg)			102	103	
エンジン	型式名		GB131LN		
	種類		空冷４サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン		
	総排気量 (L)		0.126		
	出力/回転数 (kW {PS} /rpm)		2.3{3.1}/1,650 (最大3.0{4.2})		
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量 (L)		3.6		
	点火方式		無接点マグネツト点火		
	始動方式		リコイルスタータ式		
走行部	変速段数 (段)		前進３　後進3		
	タイヤ	種類	特殊超低圧タイヤ		
		サイズ	19X10.0-8		
	走行速度(m/s)	1速 前進	0.50		
		1速 後進	0.24		
		2速 前進	0.76		
		2速 後進	0.35		
		移動速 前進	1.11		
		移動速 後進	0.52		
刈取部	刈幅 (mm)		300		
	刈取条数 (条)		1		
	刃幅 (mm)		200		
	刈高さ範囲 (mm)		(高) 40～50 (低) 30～40		
	適応作物		稲･麦		
	適応作物範囲 (mm)		600～1,200		
	倒伏適応性 (度)		追刈り　85°･向刈り　75°以内		
結束部	結束方式		ノッタビル方式		
	適応ひもの種類		P.P (1440テックス) ジュート(550テックス×6)		
	束の大きさ調整段数 (段)		5 (大～小)		
作業能率 (分/10a)			87～130		
クラッチ方式			爪クラッチ		
安全性検査合格番号			申請予定		

11.3 主な消耗部品一覧表

形状	品名	部品コード	MB225	MB215 MB115
	ナイフASSY	3217 0000 030		○
	ナイフASSY	3218 0000 050	○	
	横送り爪チェン	3218 0000 040	○	
	搬送ベルト	3218 0000 030	○	
	チェン(ヒキオコシ) ASSY チェン(ヒキオコシ) ASSY チェン(ヒキオコシ/R) ASSY	3217 0000 040 3218 0000 060 3218 0000 070	 ○ ○	○
	プラグ	BP6HS	○	○
	ゴムホース類(燃料系)	ー	○	○

補 足

- **上記消耗部品は、ほ場条件あるいは使用状況等により耐久時間が異なり交換が必要となります。なお、その他の消耗部品をご注文の際は、お買いあげ先に純正部品表（パーツカタログ）を準備しています。ご相談ください。**

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

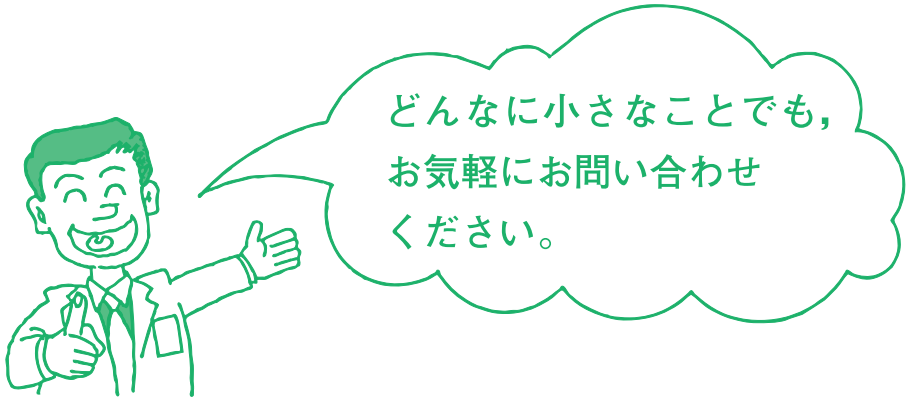
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）